

富岡町議会全員協議会日程

日時：平成28年5月24日

時間：臨時会終了後

富岡町郡山事務所 桑野分室

開 議 午前10時50分

出席議員（14名）

議長	塚野芳美君	1番	渡辺英博君
2番	高野匠美君	3番	渡辺高一君
4番	堀本典明君	5番	早川恒久君
6番	遠藤一善君	7番	安藤正純君
8番	宇佐神幸一君	9番	山本育男君
10番	高野泰君	11番	黒沢英男君
12番	高橋実君	13番	渡辺三男君

欠席議員（なし）

説明のための出席者

町 長	宮 本 皓 一 君
副 町 長	齊 藤 紀 明 君
教 育 長	石 井 賢 一 君
参事兼 会計管理兼者	佐 藤 臣 克 君
参事兼総務課長	伏 見 克 彦 君
企 画 課 長	林 紀 夫 君
税 務 課 長	三 瓶 雅 弘 君
参事兼 健康福祉課長	猪 狩 隆 君
住 民 課 長	植 杉 昭 弘 君
参事兼 安全対策課長	渡 辺 弘 道 君
参事兼 産業振興課長	菅 野 利 行 君
復興推進課長	深 谷 高 俊 君

復旧課長	三	瓶	清	一	君
教育総務課長	石	井	和	弘	君
いわき支所長	小	林	元	一	君
拠点整備課長	竹	原	信	也	君
統括出張所長	三	瓶	直	人	君
参事兼 生活支援課長	林		志	信	君
産業振興 課長補佐	猪	狩		力	君

職務のための出席者

参事兼議 事務局事務	志	賀	智	秀	
議会事務 局長	大	和田	豊	一	
議会事務 局長	藤	田	志	穂	

説明のため出席した者

【中間貯蔵施設関係】

水・大気環境局 中間貯蔵施設 チーム次長	西	尾		崇	君
水・大気環境局 中間貯蔵施設 担当参事官補佐	石	川	洋	一	君
水・大気環境局 中間貯蔵施設 担当参事官補佐	矢	野	康	明	君
福島環境再生 本部部長	坂	川		勉	君
福島環境再生事 務所中間貯蔵施 設等整備事務所	坂	路		誠	君
福島環境再生事 務所中間貯蔵施 設等整備事務所	矢	吹	清	美	君
福島環境再生事 務所中間貯蔵施 設等整備事務所	香	田	慎	也	君

福島環境再生事 務所中間貯蔵施 設浜通り事務所 長	宇賀神	知	則	君
------------------------------------	-----	---	---	---

福島環境再生事 務所中間貯蔵施 設浜通り事務所 首席監督官	塚崎	敬	治	君
--	----	---	---	---

福島環境再生事 務所中間貯蔵施 設浜通り事務所 課長補佐	松崎	正	利	君
---------------------------------------	----	---	---	---

福島環境再生事 務所県中・県南 支所長	中西	昭	弘	君
---------------------------	----	---	---	---

福島環境再生事 務所県中・県南 支所首席除染 推進官	赤羽	郁	男	君
-------------------------------------	----	---	---	---

福島県生活環境部 中間貯蔵対策室 主幹	伊藤	賢	一	君
---------------------------	----	---	---	---

【除染・廃棄物関係】

福島環境再生 本部部長	坂川		勉	君
----------------	----	--	---	---

福島環境再生事 務所放射能汚染 廃棄物対策第一 課廃棄物対策官	古山	友	美	君
--	----	---	---	---

福島環境再生事 務所放射能汚染 廃棄物対策第一 課建物解体廃棄 物処理推進室長	中川	正	則	君
---	----	---	---	---

福島環境再生事 務所放射能汚染 廃棄物対策第一 課建物解体廃棄 物処理推進室	大津寄	健	一	君
--	-----	---	---	---

福島環境再生事 務所放射能汚染 廃棄物対策第二 課長補佐	高木	恒	輝	君
---------------------------------------	----	---	---	---

福島環境再生事 務所減容化施設 整備課長	小島	啓	之	君
----------------------------	----	---	---	---

福島環境再生事 務所減容化施設 整備課長補佐	福島	正	明	君
------------------------------	----	---	---	---

福島環境再生事 務所除染対策 第一課長	加藤		聖	君
---------------------------	----	--	---	---

福島環境再生事業 所除染対策 第一課専門官 管 理 専 門 官	中	川	春	菜	君
福島環境再生事業 所県中・県南 支 所 長	中	西	昭	弘	君
福島環境再生事業 所県中・県南 支所首席除染 推 進 官	赤	羽	郁	男	君
福島環境再生事業 所県中・県南 支所首席廃棄物 推 進 官	藤	田	宏	篤	君

付議事件

1. 複合商業施設整備事業について
2. 中間貯蔵施設への搬入について
3. 平成28年度 除染・家屋解体について
4. その他

開 会 （午前10時50分）

○議長（塚野芳美君） それでは、ただいまより富岡町議会全員協議会を開会いたします。

ただいまの出席議員は14名であります。欠席議員はありません。説明のための出席者は、町長、副町長、教育長、そのほか関係各位であります。職務のための出席者は、議会事務局長、庶務係長、庶務係主任であります。

付議事件に入る前に、町長より全員協議会招集理由の説明を求めます。

町長。

○町長（宮本皓一君） 議員の皆様には臨時議会に引き続き全員協議会にご出席をいただき、まことにありがとうございます。

本日の全員協議会の案件は、複合商業施設整備事業について、町側から工事の概要、今後のスケジュールなどをご説明するものであります。また、中間貯蔵施設への搬入について及び平成28年度 除染・家屋解体についての2件について環境省より説明を受けるものであります。いずれの案件も町の復興に関する非常に重要な案件でありますので、議員各位と情報の共有を図ってまいりたいと考えております。

議員の皆様のご貴重なご意見をお願い申し上げます。

○議長（塚野芳美君） それでは、付議事件に入ります。

付議事件1、複合商業施設整備事業についての説明を産業振興課長より求めます。

産業振興課長。

○参事兼産業振興課長（菅野利行君） それでは、複合商業施設整備事業についてご説明申し上げます。

当該施設は、公設民営型の施設として再生させるため、一昨年から富岡ショッピングプラザのオーナー様と交渉を始めて、その後地権者の皆様との交渉、あわせて津波補助金あるいは加速化交付金等の申請、交付決定、その間1年間を通じて出店テナントの調整を図ってまいりました。ことしになりまして、ほぼオーナー様方との話し合いがついたため、店内の清掃事業をやらせていただきました。今般先ほどご同意いただきました内装の解体工事というふうに進んでおります。

本日は、そのような経過の中で、今後本格的に本体工事が始まりますので、それに向けた工程あるいはテナント等の調整等についての現状についてご説明いたしたく思っております。

説明につきましては、猪狩課長補佐のほうから説明いたしますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（塚野芳美君） 産業振興課長補佐。

○産業振興課長補佐（猪狩 力君） それでは、私のほうから富岡町複合商業施設整備事業に関しましてご説明をさせていただきたいと思ひます。

それでは、資料をごらんいただきたいと思います。まず、この複合商業施設、先ほど課長からもご

ざいましたように、平成28年の11月の下旬オープンを目指してこれまで進めてきた中で今後の方向性として示させていただきます。

以下の黒ぼちの2つ目なのですが、今回のこの事業につきましては、当町のみならず、周辺自治体の復興の加速化に寄与するものと、それから町民の生活向上のためのあらゆる需要に応えられるような店舗構成というようなことで整備を行ってまいります。

続きまして、建物につきましては震災前の富岡ショッピングプラザT o mーとむさんの再利用という形で取り組みます。既存の施設規模につきましては、記載のとおりで土地、建物の記載の面積となっております。それから、小売店舗につきましても5,250平米、駐車場につきましても330台というような規模感でございます。

この施設に入ります店舗の面積につきましては、記載のとおり、1つ、食料品スーパーにつきましては350坪、ホームセンターにつきましては500坪ということでございまして、これまでも新聞報道等にもございますように、スーパー、ホームセンターについてはキーテナントとなるテナントさんが入っていただくようなことになっております。それから、ドラッグストア85坪、100円ショップ120坪、飲食店につきましては地元の事業者さんに入っていただくということになってございます。それから、そのほかのサービス業としましてコインランドリー、こちらにつきましては従来の建物の外にありました外建物を利活用しまして整備する考えでございます。それから、あわせましてこれまで従前は外にありましたATMでございますが、こちらにつきましては店舗内に設置するという考えでございます。そのほか、この施設の中には貸し事務所というスペースを設けまして、約310坪でございますが同居する形という運びとなります。

それでは、こちらスケジュールということでございますが、下記のとおりなのですが、1つ目に施設の改修工事としまして、先ほど議会のほうでご承認いただきました改修工事の1、内装解体につきましては一括発注ということでございますが、この図面の中で6月から8月までの3カ月間の間のA工区、B工区というような形のスケジュールを持っております。こちらにつきましては、裏面を見ていただきたいと思います。裏面にテナントレイアウトと、それから外観パーツということでありますが、テナントレイアウトの中のホームセンターさんの黄色の部分と、あわせまして緑色の双葉郡広域交流広場のイートインの部分、それから下のオレンジ色の部分につきまして地元飲食店が入る、こちらの部分合わせましてA工区、それ以外につきましてはB工区というような形で分けさせていただいてございます。こちらにつきましては、今申し上げました工区ごとに、先に取りかかるのはA工区というようなことでご認識いただきたいと思います。

それから、大きく改修工事の2というもので、こちらにつきましては内装解体が終わった後、終わるに合わせまして改修工事の2の本格工事に入っていくというようなことでございます。改修工事の本格工事の中身としましては、仮設及び機器製作等のものが最初に参ります。それから、改修工事の2の中で内装下地、こちらはA工区が終わった後に合わせて内装下地にスケジュール的には入ってくる

というものでございます。あわせてB工区につきましてはB工区が終わった後に入ってくるというイメージでございます。それから、同じく改修工事の2につきましては内装の仕上げ、こちらもスケジュール的に9月から11月の間のA工区、12月から2月までのB工区。それから、同じく設備の取り付け、それから外装外構というふうな形で入ってまいります。

それから、大きく3つ目の備品購入につきましては、店舗内に什器を設置するということですが、什器という意味合いとしては例えばホームセンターさんですと棚とかそういった部分で設置するものということでございます。

それから、4番目の開所の時期でございますが、11月末に一部先行オープンというような形で、その後順次テナントさんの整備を行って、4月に全館のオープンを目標としてございます。

それから、5番目に議会にお諮りさせていただく案件のスケジュール的なものでございますが、本日の内装解体工事のものが5月に、記載のとおりでございまして、6月には今申し上げました改修工事の本体のほうのご同意いただくためのスケジュールを持ってございます。6月の下旬ごろということでございます。それから、9月につきましては設置条例を設けまして、並びの備品の購入につきましてはの購入を議会のほうにお諮りさせていただきたいというふうに考えてございます。それから、2月上旬になりますが、指定管理の同意取得というような形で想定してございます。

それから、大きく2の愛称、条例、指定管理というブルーの部分でございますが、最初に愛称の公募につきましては、これまで長く親しまれたTomとむという名称がございまして、新たに町のほうで取得し、愛称を広く公募したいという形で考えてございます。内容につきましては、7月に募集期間を設けまして、町の広報紙またはそういうホームページあるいはそういった募集のサイトのほうに登録をしまして募集を図りたい。それから、その後経まして委員会の中で選定をしまして、その後商標登録に2カ月ほど要し、結果を公表したい。公表につきましては12月の一部先行オープンのときに考えたいという形でございます。

それから、条例制定につきましては先ほど申し上げましたが、9月の議会同意に向けて設置条例案を9月ということで考えてございます。

それから、指定管理の公募につきましては、12月に公募を予定してございまして、その後審査を行い、決定をし、それから議会にまたお諮りさせていただきたいというようなスケジュールで考えてございます。

それから、先ほどの外観パースにつきましては、従前の富岡Tomとむさんの外観をもとに、テナントとして入っていただきます店舗のほうの呼称をパースのほうに盛り込ませていただきました。それから、テナントレイアウトにつきましては、こちらの貸し事務所スペースまたは商業スペースの部分につきましては、補助制度の関係もございまして、中での行き来がちょっと制約をされるという部分がございますので、説明させていただきたいと思います。

私のほうからは以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 説明が終わりましたので、これより質疑を許します。質疑ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（塚野芳美君） 質疑がないようですので、質疑を終了いたします。

以上をもちまして、付議事件 1、複合商業施設整備事業についての件を終わります。

ここで説明者の入れかえのために11時10分まで休議いたします。

休 議 （午前 1 1 時 0 1 分）

再 開 （午前 1 1 時 1 0 分）

○議長（塚野芳美君） それでは、再開いたします。

付議事件 2 及び付議事件 3 に関しましての出席者は、お手元に配付してありますように、国及び福島県関係から多数の方になっておりますので、配付のとおりであります。説明のときにお名前をおっしゃっていただけたらと思いますので、それとあわせて参考にさせていただきたいと思います。

付議事件 2、中間貯蔵施設への搬入についての説明を求めますが、どなたが説明していただけますか。

坂川さん。

○福島環境再生本部長（坂川 勉君） 福島環境再生本部長の坂川でございます。富岡町の皆様方には私ども環境省が実施しております除染、廃棄物処理、それから中間貯蔵施設への輸送などにつきましてご理解またご協力いただきまして、大変ありがとうございます。また、本日はご説明の機会を与えていただきまして感謝申し上げます。

まず、最初に中間貯蔵施設への搬入についてご説明をさせていただきたいと思っております。昨年度は、パイロット輸送で合計で約 5 万立方メートルの輸送を行いましたけれども、今年度はこの約 3 倍の15立方メートルを輸送したいと考えておりますし、また来年度以降段階的に輸送量を増加してまいります。中間貯蔵施設への輸送に関しましては、県内の各市町村から早期の輸送を強く求められておりまして、福島の復興のために不可欠であると考えておりますので、私どもできるだけ早くまた安全に十分留意しながら輸送を計画してまいりたいと考えておりますので、どうかご理解をよろしくお願いいたします。

また、その後になりますけれども、フォローアップ除染、それから建物解体などにつきましても、また後ほどご説明をさせていただきたいと思えます。

いずれの事業も福島の復興のために大変重要でございますので、私ども全力を尽くしてまいりたいと考えております。どうかよろしくお願いいたします。

○議長（塚野芳美君） 石川さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設担当参事官室参事官補佐（石川洋一君） 資料のほうの説明をさせていただきます環境省の中間貯蔵チームで参事官補佐をしております石川でございます。資料のほう説

明させていただきます。

お手元にありますA4横の資料でご説明させていただきたいと思います。本日ご説明させていただきますことは、パイロット輸送の結果と今後の輸送についてということをご説明させていただきたいと思います。

おめくりいただきまして1ページでございます。まず、パイロット輸送の結果ですけれども、大量の除去土壌等の輸送に向けまして、安全かつ確実な輸送を実施できることを確認するために、福島県内の43の市町村からおおむね1,000立米程度ずつパイロット輸送のほうを実施してまいりました。パイロット輸送につきましては、平成28年3月28日に完了しました。パイロット輸送の実績でございますが、総搬入量、保管場に持ち込んだ量ですけれども、合計4万5,382立米でございます。その搬入に用いました輸送車両の台数ですけれども、7,529台でございます。保管場に入ったものにつきましては保管場を退出する際、スクリーニングのほうを実施しました。こちらについては全車両を基準値である1万3,000c p m未満であることを確認してございます。

続きまして、2ページでございます。輸送路における放射線量の測定を実施させていただきました。こちらにつきましては、輸送車両が通過する交差点や速度が低下する地点について測定を実施しまして、富岡町さんの場合はこの図にあります黄色く塗ってあるところの富岡インターの交差点付近で放射線量を測定させていただきました。

1枚めくっていただきまして3ページでございます。放射線量率の測定結果でございますが、富岡インターを通過した車両につきましては、この表の一番左にございます4,919台でございます。この4,919台が通過したときに、線量率の増加が観測されたものはゼロ台でございます。今回のパイロット輸送におきましては、放射線量率が増加した場合は確認されませんでした。なお、引き続きこの地点でモニタリングを実施していきたいと考えているところでございます。

続きまして4ページでございます。富岡町内の輸送路におきまして騒音、振動の測定を実施させていただきました。実施地点につきましては、国道6号で1地点、あと県道35号で1地点、県道36号で2地点実施しているところでございます。

1枚めくっていただきまして5ページでございます。騒音の測定につきましては、輸送車両が通過する前の事前と、輸送車両が通過しているときの輸送時という2つの場面で測定をしております。結果につきましては騒音の場合、環境基準がございまして70デシベルという基準がございまして、この基準に対して輸送時の調査におきましては、全て環境基準を下回る結果になりました。続きまして、振動でございます。振動につきましては、振動規制法の要請限度というのが70デシベルという数字がございまして、こちらにつきましても、騒音と同様に輸送車両が通る前と輸送車両が通る後で測定のほうを実施させていただきました。こちらも要請限度70デシベルに対して数値のほうは全て要請限度を下回るという結果になってございます。

続きまして、1枚おめくりいただきましてパイロット輸送に係る検証結果の報告でございます。パ

イロット輸送の検証結果につきましては、有識者から成る検討会等でご意見をいただきながら検討結果をまとめさせていただきました。検証結果の総括でございますが、こちらにつきましてはパイロット輸送前に想定したり準備させていただきました安全対策等はおおむね想定どおり機能したと、輸送車両による事故はゼロであったという結果でございます。また、パイロット輸送期間中の日々の輸送を実施する中で発見された課題等は、関係機関の連携のもと、道路補修等の安全対策を実施したり、総合管理システムの機能の改修等を行いまして、改善策を講じながら安全かつ確実な輸送を実施できたと考えているところでございます。今回の検証結果により、今後検討が必要な事項についての改善策が明らかになってございます。今後輸送量を段階的にふやしていくところでございますが、具体的な改善策を継続的に実施していきたいと考えてございます。

続きまして、8 ページで今回パイロット輸送の検証で明らかになりました必要な対策や改善策でございます。例えば8 ページの(2)の輸送の部分でありますと、例えばハード面の道路補修等やソフト面の教育研修等の道路交通対策を適切に実施していく必要があると考えてございます。こちらについては、昨年の全員協議会の場合でも県道36号のJ R 高架下付近の安全対策は大丈夫かというご意見をいただきました。こちらにつきましては、パイロット期間中におきまして、実際の運転者さんから県道36号の高架下付近の状況を聞き取りまして、実態としまして2つの課題が確認されております。1つは、非常にJ R 高架下の部分というのは見通しが悪いという点であったりとか、2つ目として対向車の速度が非常に速く来るのですれ違いにちょっと怖いときがあると、このような意見が確認されています。このような意見に対応すべく、環境省といたしましては、現在パイロット輸送でも行っていましたガードマンを引き続きJ R の高架下には2名配置いたしまして、対向車が来た場合は減速を促すような措置をしていきたいと思っております。また、新たに追加する対策として、見通しが悪いという意見がございました。こちらにつきましては、J R の高架下を過ぎて6号に向かう方向に内閣府の休憩所のゲートがございます。こちらのゲートを一部撤去していただいたりとか、一部下げていただいたりとかして見通しの改善を図らせていただきました。こちらをことしの3月に実施しております。また、対向車の速度が速いという状況におきましては、一般車に対して速度落とせの看板をつけさせていただいているのですが、こちらについては看板を増設するとともに、さらなる減速を促す措置をさせていただければと考えているところでございます。

続きまして、緊急時対応に向けた関係機関の連携の強化が必要ということを認識させていただきました。緊急時、主に事故時対応につきましては、パイロット輸送におきまして通報連絡体制の改善や事故箇所には警察の車両の先導によりますクレーン車とか重機車両が速やかに事故現場に向かえるような措置を警察と連携してできる体制を整えております。また、事故現場に駆けつける者として、今回輸送に携わっている施工業者とか保管場に携わっている施工業者のみならず、富岡町内で除染を実施しているJ Vさんにも事故時の復旧作業の支援はしていただくというような体制が整っているところでございます。

続きまして、(3)の輸送管理でございます。この輸送管理というのは環境省が今回中間貯蔵施設への輸送を行うに当たりまして、輸送対象物の全数管理や輸送車両の運行管理を実施してございました。輸送車両の運行管理につきましては、もともと運行情報が7分に1回上がってくるという状況であったのですが、やっぱりさらにもっと密にデータをとる必要があるだろうと考えまして、1分に1回データが運行情報が上がってくるようにシステムを改善させていただきました。また、輸送車両による輸送ルートの規定されたルートから外れた場合等の措置を速やかにできるように、輸送車両がルートを外れた場合には輸送統括管理者のほうでその状況がわかるようにシステムのほうを改良させていただいております。

(4)の保管場でございますが、こちらの保管場につきましてはスクリーニングにつきましては、基準値以下だったということは先ほどご報告させていただいたところでございますが、こちらにつきましては、スクリーニングが1台当たり10分程度かかるというような状況も確認されました。こちらにつきましては、今後の大量の輸送に向けましてスクリーニングの効率化ということも大事なことだと思ひまして、こちらにつきましては検討していきたいと考えているところでございます。

1枚おめくりいただきまして、9ページでございます。平成28年度を中心とした中間貯蔵施設事業の方針でございます。大きく用地と施設と輸送と3つの分野で28年度を中心とした方針を環境省としては公表させていただいております。まず、用地取得につきましては、やはり県内市町村にある除去土壌等を早期に解消したいと思っております。用地の取得の体制をさらに強化していきたいと考えているところでございます。

施設については2つございまして、1つは本格施設、これは受け入れ、分別施設や土壌貯蔵施設や仮設焼却炉の施設について今年度より整備に着手していきたいと考えてございます。また、輸送を継続させたいと考えておりますので、こちらについては保管場の整備を引き続き実施していくということを考えてございます。

続きまして、輸送でございます。輸送につきましては、平成28年度の輸送量は15万立米程度を想定しております。パイロット輸送の約3倍ということでございます。こちらの輸送につきましては、既に着手させていただいております。また、各市町村の搬出量を3つの要素で今決めさせていただいております。1つは、各市町村を均等に配分した基礎量であったりとか、立地町である大熊地や双葉町、また輸送車両が大量に通過する富岡町さんや浪江町への配慮ということと、あと3つ目としまして除染の発生量等に応じた傾斜配分をつけるということで、各市町村の搬出ボリュームを設定させていただいているところでございます。

続きまして、10ページでございます。富岡町に関する平成28年度の除染土壌に係る輸送車両の運行についてということで、28年度の輸送についての富岡町さんからの搬出場所とか富岡町さんを通過する輸送車両の量とかをここでお示しさせていただいております。まず、3の搬出元でございますが、富岡町さんの除染土壌につきましては、今回第一仮置き場、富岡駅の近辺にある仮置き場からの搬出

を考えてございます。及び富岡町内を通過するものとしましては、県内各地の市町村からの仮置き場のものが富岡町内を通過するということでございます。これらのものを富岡町内を通過させていただきまして、大熊町や双葉町の間貯蔵施設予定地の保管場に輸送をさせていただきたいと考えてございます。

輸送の対象物につきましては、4でございます。除染に伴い生じた土壌等でございます。ボリューム的には富岡町からおおむね8,500立米程度を想定してございます。また、その他富岡町内を通過する可能性のある市町村からはおおむね7万立米程度を想定してございます。ルートについてはこの後ご説明させていただきます。

輸送期間につきましては、平成28年の7月からおおむね1年をかけまして富岡町内のものであったりとか、富岡町内を通過する7万立米の輸送を行いたいと考えているところでございます。

輸送車両の表示でございます。輸送車両の表示につきましては、パイロット輸送のときと若干変更をしております。パイロット輸送のときにも輸送車両の前後左右にはこのような除染土壌等運搬車という表示をさせていただきました。変更点は2点でございます。まず、正面の表示につきましては、これは今回表示の色を統一させていただきました。また、後方の表示につきましては、今までダンプの荷台のところに1カ所つけていたのですけれども、後方の車両から中間貯蔵への輸送車両ということがよりわかるように表示を大きくしたりとか、ダンプのお尻の部分にも除染土壌等運搬車という表示を追加させていただいてございます。

最後になりますが、輸送ルートでございます。平成28年度の富岡町さんのルートですけれども、こちらのルートにつきましては、まずパイロット輸送と同じルートを使わせていただきたいと考えているところでございます。具体的には図面の左からいきますと、川内村等のものが小野富岡線、県道36号線を西から東に移動します。また、福島県内の各市町村のものにつきましては、常磐自動車道を使いまして、常磐富岡インターをおりまして県道36号、6号に向かったりとか、県道35号を北上したりして保管場に向かうことを想定してございます。また、県道35号の図面でいう下側から常磐富岡インターまでというのは、今回市町村の輸送路としては考えていないのですけれども、今後例えば常磐道とかで通行どめ等の事故があった場合、迂回路として考えていますので、こちらの35号の南側の部分も輸送ルートとしては設定させていただきたいと考えているところでございます。図面の右側にあります国道6号ですけれども、こちらにつきましては楡葉町等のものを想定してございます。こちらにつきましては6号を北上させていただきまして、大熊町の保管場のほうに移動したいと考えてございます。富岡町さんの第一仮置き場のものにつきましては、こちらパイロット輸送のときと同様に、富岡町道を使わせていただきまして、そこから北上しまして保管場のほうに搬入したいと考えているところでございます。

資料の説明については以上でございます。ありがとうございました。

○議長（塚野芳美君） 説明が終わりましたので、これより質疑を許します。質疑ございませんか。

7 番、安藤正純君。

○7 番（安藤正純君） 騒音のほうの質問をさせてください。今パイロット輸送で環境基準に満たないと。環境基準に満たないのだけれども、結局本格輸送になればパイロット輸送の台数が全然違いますよね、3 倍ぐらいになるということで。今国の基準が70なのだけれども、66とか67とかかなり近いのです。以下だと言ってもほぼ国の基準と同程度ぐらいまで来ているので、騒音と環境基準、その両方をもっとやるべきかなと思うのです。

それともう一点は、8 ページの（3）の輸送管理、この中で通信不感区域対策ということで、やはり阿武隈山系とか川内街道、こちらを通ってくる36号、これなんかはやはり山越えするとき電波入り悪いのです。そういったときに例えばスリップしたとか崖下に落ちたとか、事故発生したとかけがしたとか、やはり常磐高速なんかの事故なんかのときも近くに大きい病院あれば助かったかもしれないという事故も発生しているので、やはりそういった電波の入り悪いところには中継基地というか、アンテナの入りがよくなるような設備もあっていいのかなと思うのですが、騒音とあとは電波の入りよい悪い、この2点をちょっと質問させてください。

○議長（塚野芳美君） 西尾さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設チーム次長（西尾 崇君） 環境本省で輸送を担当しております西尾でございます。よろしくお願いいたします。座って説明させていただきます。

まず、騒音についてでございます。騒音につきましては、ピーク時の輸送ということで、今のパイロット輸送からすると100倍、2 桁違うオーダーでございますので、おっしゃるとおり騒音の関係についてもきちんと予測をしておく必要があると、我々は思っております。予測した結果でございますけれども、実は常磐富岡インターにつきましては、今後大熊インターチェンジが平成30年度にでき上がるという話になっておりますので、全部ではありませんけれども、大熊インターチェンジを使うということになれば、先ほどの常磐富岡インターを使う量というのはぐっと減るというふうな感じで考えております。そういったことも踏まえて、交通量をどこを通るかということを想定した上で計算した結果によりますと、環境基準をクリアする形にはなっております。ただ、お話ありましたとおり、騒音については確認をきちんとしておくというのは非常に大事なことだと思っておりますので、予測だけではなく、こういった形でのモニタリングといいますのは、今後も引き続き進めていきたいというふうに考えております。これが1 点目でございます。

それから、もう一点目、不感地帯の話ございました。この不感地帯対策につきましては、私どもやはり輸送車両がどこにいるかときちんと確認するというのが非常に大事だというふうに思っておりますものですから、今現在も確かに阿武隈山地も含めまして不感地帯でございます。こういった不感地帯についてはどうやって対応しているかということで申し上げますと、電波が届くところにつきましては先ほどのお話のとおり、1 分単位でどこにいるかという情報は全部センターのほうでわかるということになっておりますが、不感地帯でございますと、そういった電波が届かないことになります。そこ

のエリアにつきましては、そのエリアを通るときにはパトロールカー、衛星携帯を持ったパトロールカーを巡回させていて、事故が起こった車両を見つけたらその場で衛星携帯で連絡をするというふうな体制をとっておるところでございます。ただ、衛星携帯で常に巡回するというのは非常に非効率だと我々も思っておりまして、ここについてはできるだけ電波でつながるような形になると我々もいいなと思っております。また、これは輸送だけの話ではなくて、例えば一時帰宅される方もあるかもしれないし、今後の復興を考えてみてもいろんな車両が通るところでございますので、この不感地をそのままにしておくというのは、環境省としてもこれはいかなものかというふうに思っているところでございます。これにつきましては、輸送だけの話ではなくてトータルの話でございますので、復興庁さんとも話をしております、こういった不感地帯対策、こういったお金でどういうふうにできるかなんていう話をさせていただいております、調整中でございますけれども、国のお金で大多数のところを補助金を出して実際つくるような形ができるような話を聞いております、こういったご要望は実は先ほどのお話以外にもほかの町さんからもいただいておりますものですから、福島県内全体でこの議論をする必要があるなということで、福島県さんのほうとも今調整をしているところでございます、生活環境部さんに窓口になっていただいて、通信関係の部局にも今相談をさせていただいて、国のお金を使ってどういうふうにすればうまくこういった不感地対策が福島県全域でうまく進むのかということは今議論を進めているところでございますので、関係者としてもそれをうまくバックアップをして、これがうまくできるように進めていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 騒音問題、引き続きモニタリングという話なのですが、モニタリングはわかるのですが、今現在も70デシベルというの66とか67で決して低い数字ではないのです。ですから、下回っているからいいでしょうという問題ではなくて、何らかの対策は必要ではないですか。これから通過する台数は今までのパイロットとは比較にならない台数が通るわけですから、そういった場合にどういうことを考えますかということ、引き続きということは検討しますというだけの答えにしか聞こえないので、どんなふうに例えば対策を考えているか、具体的に説明できるものがあればお話しください。

あともう一点、不感地域の対策、これは確かに管制塔とダンプの運転手の人の無線の関係とかGPSとかそういったので位置がわかる、これも大切です。しかし、例えば地域住民、一般の人からの通報、どこどこにダンプが転がっているよ、例えば携帯電話からそういったところに連絡できるような体制でもとれば、確かに優秀な無線が入るようになることも大切ですけれども、やはり民間の携帯会社なんかでも中継基地をそこにつくってくれれば、山奥でも個人が持っている携帯でもそういう事故の通報ができるよと、そういったこともあっていいのかなと。それに伴ってやはり医療体制もきちりしないと、助かる命が亡くなってしまうよということになるので、その辺も含めてご回答くださ

い。

○議長（塚野芳美君） 西尾さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設チーム次長（西尾 崇君） 騒音につきましては、先ほどの資料のページごらんいただきますと、5ページ目でございます。これ例えばでございますけれども、この表を見ていただきますと、右半分に交通量のデータ今載せさせていただいております。輸送時の調査でいきますと、一番上の欄でいきますと、ナンバー1です。一般車両5,000台に対して大型車そのうち859台ですけれども、輸送車両今16台ということで、今現在はこんな数字ということでございますけれども、輸送車両がこれからふえていくというふうになったときにどうするかという課題かなというふうに思っております。これにつきましては、騒音といいますのは、スピードが一番きいてまいります。やはりスピード超過すればするだけ騒音が大きくなるという状況ございますので、きちんとスピードを、速度制限をきちっと守って遵守をして走るというのが、一番基本的な対策だと思っておりますので、そういった対策をきちんととっていくということで環境省で考えてやりたいというふうに思っております。これが1点目でございます。

それから、2点目の不感地対策につきましては、お話のとおりでございますして、今現在私どもが使っております通信もまさに携帯通信と同じ通信を使っておりますので、携帯通信がうまく、不感地なくなれば、我々も輸送のシステムが使えることになりまして、一般の方々も携帯で電話連絡ができるということでございます。一石二鳥だというふうに思っております。そういった観点から輸送のためでもあります。それから、地域の復興のため、それから地域の皆さんが使っていただける、トータルとしていい話だと思っておりますので、関係省としても復興庁さん、関係機関と連携しながらうまくそれをつくっていくような形で進めていきたいというふうに思っております。

○議長（塚野芳美君） 7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 1点目の今の説明で速度との関係があるということなのですが、速度を守っていれば70デシベルにならない範囲でいくということではなくて、例えば道路の路面で騒音が出にくい路面があればそういう路面に、特にこういう交差がいっぱいするところはそういうアスファルトの関係をもっと騒音出づらいアスファルトにするとか、そういった工夫もすればいいのかなという考えがあるかどうか。

それと先ほど2点目のほうは病院とか医療関係も結構郡山とかいわきとかほど遠いところに立派な病院あるものですから、そういった関係も直ちにけがなんかした場合運ばれるように、その点も考えてほしいということが2点目に入れてほしいのです。その辺もう一度お願いします。

○議長（塚野芳美君） 西尾さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設チーム次長（西尾 崇君） お話にありました舗装の件でございます。お話のとおり、低騒音舗装というのがございまして、舗装の表面が若干穴ぼこがあいたような、これが騒音を若干下げる効果がございまして、大体3デシベルぐらい下げるような効果がございまして、

問題が大きいうであれば環境省としてもその対策は考えていきたいというふうに思っております。これにつきましては、県さんとも連携をして、つまり輸送車両に基づく影響と、それから一般車両の影響等々ございますので、県さんとうまく連携をしながら進めていくように、今も県さんと調整をしておりますので、そういった形で進めていきたいというふうに思っております。これが1点目でございます。

それから、2点目につきましては、お話にありました救急看護、病院関係、これも含めて大事だと我々も地域の方々の思い、一緒でございますので、関係機関と連携してうまく進められるようにしたいというふうに思っております。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

11番、黒沢英男君。

○11番（黒沢英男君） 10ページの輸送についてですが、非常に10ページに書いてあるように、富岡町平成28年度の土壌等に係る輸送車両の運行についてなのですが、作業時間7時半から18時となっておりますが、ちょうどこの時間帯というのは東京電力第一原発へ行く廃炉事業者のピークの時間なのです。この時間帯に10トンダンプで1日当たり100往復というふうな、現実には全てを含めて100往復というのは書いてあるのかどうか分かりませんが、搬出元から7時半に出て搬出先に、双葉、大熊のほうに持っていくということは、ちょうど第一原発のラッシュ時間に当たるのです。少しこの辺の配慮というのはできないのかどうか、もうちょっと時間をずらすとか、8時ぐらいからの出発にするとか、搬出にするとか何か、その辺一考あってもいいのかなということ。我々例えば平日に帰還するときに楢葉のインターからおりて6号線を通るときに非常にラッシュアワーに遭うのです。また、富岡のインターからおりてきてもこのルートはちょっとやっぱり6号線のルートのこの時間帯だけは、富岡の第一仮置き場から搬出するときの時間帯だけは十分に考えていただけないかどうか、その辺伺います。

○議長（塚野芳美君） 石川さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設担当参事官室参事官補佐（石川洋一君） ご指摘ありがとうございます。輸送を行うに当たって渋滞時間を回避するというのは、非常に重要なポイントだと認識しているところでございます。東電の車両につきましては、我々も東電さんとの競合部分がございます。こちらについて大熊町のほうにあります中央台交差点になるのですけれども、6号の交差点でございますが、こちらで交通量調査等を実施させていただきました。そうすると、東電さんの車両というのは主に混む時間というのは朝の6時台から8時までという認識を持っております。こうした今の状況からしますと、7時半という時間ですと若干かぶるのですけれども、大きな影響は今のところないのかなと思っておりますが、今ご指摘があったとおりでございますので、こちらにつきましては輸送時間等はよく現地の状況も確認しながら、対応していきたいなと考えているところでございます。

○議長（塚野芳美君） 11番、黒沢英男君。

○11番（黒沢英男君） 多少という表現なのですが、实际的に直面してみると、私も何回か6号線、8時台の通行を試みましたが、本当に進まないですよ。考えられないぐらいの渋滞ですよ。6号線手前の富岡の中央の信号機、その手前のまた信号機、太田の信号機というふうに行くわけなのですが、太田の信号機から始まる。そこは通過しないからいいとして、ずっとその先から行ってなのですが、これだけはちょっと実証する前に実際ここを通過してみて、どのような状況になっているか、これだけ把握してから行っていただきたいと。

○議長（塚野芳美君） 石川さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設担当参事官室参事官補佐（石川洋一君） ありがとうございます。ご指摘を踏まえまして現地を改めて確認させていただきまして、状況の把握に努めたいと思います。

どうもありがとうございました。

○11番（黒沢英男君） 終わります。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

12番、高橋実君。

○12番（高橋 実君） まずは騒音、振動の質問をさせていただきます。

騒音、振動はまず道路面、透水舗装よりは密量舗装のほうが振動、騒音少なくなるし、輸送車両のタイヤ、げた山より縦山のほうが騒音も振動もないわけですし、そこら辺環境省のほうでやっているから十二分明白いでしょうから。

それと輸送時、一般道及び高速道路での運搬車両、長時間の交通どめ食ったときの待避の方法、どういうふうにしているのか。

あと1分ごとに管理しているというのだけれども、GPSでどこまで管理しているのか。ただの位置の管理だけなのか。スピードとかそういうものもあわせて管理できているのか。それと国の輸送のマニュアルどこまで明確になっているのか、ちょっと不安のところあるのですけれども。受注業者、元請業者に丸投げしているような話も聞くこともあるのですけれども、まず運転手の出社してトラックに乗ってエンジンかけてスタートするに当たって運行管理業務にのっとなってアルコールの検知から始まって、体調不良とか運行管理者の運転者に対する確認等々もちゃんとやっているのか、あとはスピード関係の確認するのにGPSでしているのであれば、そこの辺どういような管理体制になっているのか。まるっきり元請業者に丸投げしているのか、日々ちゃんと管理しているのか、発注者側に。

磐越自動車道はいわきから西に向かって上下線ともスピードが80キロなのです。去年、私が当事者だったのだけれども、環境省のほうに車番までは言ってやったのだ、会社名は言わなかったけれども80キロのところ朝寝坊したのかどうだかわからないけれども、100キロも飛ばして、私くっついて歩いて100キロはかったのではないですよ、目測で。そのときに聞いた話だと、環境省、発注者側ではそこまで管理していない、受注者側、ゼネコンであればゼネコンのほうで1次ないし2次を教育して管理しているというような話ぶりだったのだけれども、もしそういうことでは走る凶器を今後台数ふ

やして、ふえていきますよね、パイロット輸送のほかにも。別なものも事業を抱えているでしょうから。そういったときに富岡町内であれば富岡町民、主に日中帰る人も高齢の人が結構多いですから。そこら辺の安全確保はきっちり発注者側では1から10まで把握しているのか、ちょっと教えてください。

○議長（塚野芳美君） 西尾さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設チーム次長（西尾 崇君） 3点ほどだったのかなというふうに思います。1つ目が騒音、振動の話と、それから2つ目が高速道路が通行どめになったときの体制をどうするのかという話が2つ目。3つ目がスピードについてということだったと思います。1番目と3番目について答えさせていただきます。

まず、1番目でございます。お話のとおり騒音については車の側でもいろんな対策ございます。タイヤでの筋のつけ方ですとか、あるいはエンジン音を出さないようにするためにエンジンそのものからかえるというのもありますし、それからフードをつけるとかいろんな対策が実はございます。ただ、トータルとして見たときにこういった形で騒音が出ているのか、当然コストの話もありますので、車の側でもいろいろその対策を試行錯誤しているというふうな状況だというふうに我々は認識しております。いずれにしましても、トータルして環境基準をどうクリアするかというのは車の側の対策もございまして、それから先ほどご意見もいただきました舗装面の対策、いろんな対策ございますので、それを全体としてどれが一番ベストかというのを考えながらやっていくというのが我々のスタンスでございますので、そういった形でいずれにしましても環境基準をきちんと下回るように管理をしていきたいというふうに思っております。

3番目でございますけれども、スピード違反の管理についてでございます。輸送車両につきましてはいわゆるタコグラフ、車がどれぐらいのスピードを出していたのかという部分はデータ残っておりますので、それについては全ての車両、そういった機器をつけておりまして、その機器につきまして運行管理者がきちんとチェックをしているというふうな状況でございます。定期的にこれチェックをしているということでございます。先ほど話がございました80キロのものが100キロぐらい出されていたという、これをどの車かというのは私どもきちんと把握はできませんでしたが、いずれにしましても、スピードを出さないようにというふうな管理は、そういった一台一台の車の管理をしながらきちんと統制はしていきたいというふうに思っております。

これにつきましては、いわゆる1次の元請でありますJVのほうでそういったきちんとした管理をしておりますけれども、先ほど話のありましたとおり、スピード違反が相当ありそうだということであれば、私どものほうも、要は発注者側もスピード違反の状況とかは確認したりとか、そういったことはやれるかなというふうに思っておりますので、つきましては話にありましたことを受けまして、私どもとしても検討したいと思います。

○議長（塚野芳美君） 矢野さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設担当参事官室参事官補佐（矢野康明君） 環境省の本省に西尾の下に
おります矢野と申します。先ほどご質問のうちの2つ目の長時間の交通どめがあった場合の対応をど
うしているのかというご質問かと思えます。

まず、私ども輸送に当たりましては、輸送の統括管理センターとそれから福島県警さん、県警本部
さん、それから道路管理者さん、高速道路の場合ですとネクスコ東日本の交通管制センターさんとの
情報連携をとる形をとらせていただいております。まず、交通事故に伴う通行どめがありました際に
は、即座に県警本部さんあるいはネクスコさんのほうから私どものほうに情報を頂戴いたしまして、
私どもの統括管理センターのほうから関係する各JVに対しまして、以下の指示を出すことにしてお
ります。

まず、走行中の車両につきましては、安全な場所で待避すること。具体的には高速道路の場合です
と、差塩パーキングあるいは柵葉パーキングに専用の駐車升を準備をさせていただいております、
ここに車両を停止して待避をすること。あるいは一般道におきましては安全な場所を確保するという
ことはなかなか難しゅうございますが、場合によっては高速道路に乗らないで、そのままUターンし
て戻るということで安全行動をルール化をしております。

これまでもご指摘のように、特に常磐道での事故が何度かございまして、今申しましたような事態
を早急に対策をとって、最大では2時間半程度の待機の後、改めて連絡をいただいた上で出発すると、
安全確認をした上で出発するというのをやっております。

今年度からの輸送につきましては、さらに実施計画に迂回という方法も追記をさせていただきまし
て、今後各省庁さんと確認をしながら、適切な迂回の方法も確認をした上で、待避、そして迂回とい
う方法で貯蔵施設へ向かう、あるいは積み込み場に戻るといった行動に指示を出すということにして
おります。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 12番、高橋実君。

○12番（高橋 実君） 騒音、振動は車の性能とか道路状況とか十二分わかるでしょうから、西尾さ
んも。本業に近いほうでしょうから。

あと長時間の通行どめ食ったとき、とりあえず磐越、常磐通過中でパーキング差塩、柵葉、何台ず
つ確保できるのかわからないけれども、スペースが。多分に従来の状況を見ていると、さほど置ける
スペースはないと思う。最大限どのぐらいの時間置きに中通りから来るのかわからないけれども。な
ってからでは遅いからこの資料で質問しているわけですから、できればこういうのをつくってくる前
に、よく現状を把握してもらって詳細までわかるようにしてもらえると助かるのです。とにかく指定
廃棄物運搬、空車も積み荷積んでいる状況も一般から見ると異様なものですから、そこら辺を十分頭
に置いて、資料の一番後ろに輸送車両の両側面、前後、全部ステッカー張って一般からはわかる車両
なのですから、そういう不快感の持たれるような場面のときの対応の仕方だけしっかりしておいてく

ださい。

よろしくお願いしておきます。

○議長（塚野芳美君） 西尾さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設チーム次長（西尾 崇君） お話伺いました。お話ありましたとおり、高速道路が通行どめになったとき、私どもも非常に難しい、悩ましい分類の問題でございます。お話ししましたとおり、サービスエリア、パーキングエリアに一応ある程度数は確保しておりますけれども、これで今後輸送量ふえてきますので、これでは足りないと私どもも認識しております。これにつきましてはお話にありましたとおり、一般の方も使われるサービスエリア、パーキングエリアでたくさんの量を確保して、そこにたくさんの車をとめるというのは、一般の方々から見ていただいてもなかなか見苦しいのではないかなというふうに思っておりますので、これについては高速道路の外に、いわゆるインターチェンジをおりて確保できる場所、これを今から準備をし始めているところでございます。

いずれにしても、今ある確保している量は今お話のとおりでございますので、場合によっては折り返してもとの場所に戻るということも含めて現場体制を整えたいと思っております。いずれにしても、まずは発車をしない、見合わせるというのが一番大事な対策だと思っておりますので、走っている車についてはとにかく走り出していますので、それについては確保できるところにとめられるのであればとめる、とめられないのであれば折り返すあるいは迂回をする、どれだけの対策がとれるかというのはその現場、現場の交通状況になって全然変わってきますので、それはセンターのほうでは警察さん、各道路管理者さんから連絡を受けてどこでどれだけの滞留が起きているのか、混んでいるのかという状況を把握した上で、センターから各車に指示を出すと、そういう体制をとっておりますので、問題が生じないように調整をして現場でうまく動かしたいというふうに思っております。

よろしくお願いしたいと思います。

○議長（塚野芳美君） そのほかございますか。

4番、堀本典明君。

○4番（堀本典明君） ありがとうございます。先ほど8ページの輸送について、前回の全協の中でも県道36号線の高架下というかJ Rのアンダーパスの部分で非常にいろいろ問題が出て、なかなかやっぱり聞き取りの中でも非常に怖い部分があったということを聞きました。その中で対策をされたというふうに聞いたのですが、ちょっとその場しのぎの対策かなというふうに感じまして、もう少し抜本的な対策、例えば本来であるならばあそこかなり狭いので広げたりするというのが一番いいのでしょうか、なかなか厳しいというところもあるのかもしれませんが、ただ、その中でやはり急勾配でおりにってかなりの角度で回るというような状況がある中で、あそこもと県道が真っすぐ多分通るはずだったというふうなことを聞いておるのですが、そういった抜本的な見直しを考えて協議とかされているのかどうかというのが気になるので、その辺をひとつお聞かせいただきたいのと、あ

と今富岡の輸送ルートは曲田を通るルートになっているのかなというふうに思うのですが、富岡もあそこ拠点整備としてこれからいろいろと工事、その他が出てきて交通量ふえると思うのです。なので曲田を通るのではなくて、ちょっと遠回りになるかもしれませんが、広野小高線等を利用して国道に出るなりなんなりというようなことを考えているのかどうかというのを2点お願いいたします。

○議長（塚野芳美君） 西尾さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設チーム次長（西尾 崇君） 先ほど2点あったかと思います。1点目の県道36号のJRくぐるところ、ここについて非常に狭いということ、あと急カーブだということで私どもも悩ましいなと思っていたところでございまして、これにつきましては県さんも昔からここをどうするかという懸案があったということで、私どももできればここをうまく、もし事業に着手されるのであればぜひ早くお願いしたいなという話をしていたところでございまして、これにつきましては県さんのほうから今の状況についてお話をこの後していただきたいというふうに思います。

○議長（塚野芳美君） 石川さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設担当参事官室参事官補佐（石川洋一君） 2点目の富岡第一仮置き場からのルートにつきましてはなのですが、現状パイロット輸送で使った富岡町道を使わせていただきたいと考えているところでございますが、町当局さんのほうからはこちらについては排水路の工事があつたりとか、道路の災害復旧があるという情報は聞いておりますので、こちらの工程を調整してもらいながらルート設定のほうをしていきたいと考えておりますので、引き続き町当局さんと調整しながらやらせていただければと考えてございます。

○議長（塚野芳美君） 伊藤さん。

○福島県生活環境部中間貯蔵対策室主幹（伊藤賢一君） 福島県中間貯蔵施設等対策室のほうで輸送調整担当の主幹をしております伊藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は道路担当、土木部のほう出席しておりませんので、私のほうからお答えをさせていただきます。ご質問、ご意見等をいただきました県道36号、県道の富岡線でございますが、こちらの県の道路整備計画上でいきますと、高津戸工区になろうかと思えます。こちらにつきましては、県の道路整備事業としましては今年度、平成28年度から事業着手ということで、今年度は調査設計に着手をするということで承知しております。ただ、そちらの抜本的なところでいきますと、当然ながら調査設計、それから用地の手当て等も出てきます。時間的なものが出てまいる。そういう意味でそちらは当然県のほうで責任を持って進めていく、これは町当局事業課とも今後協議調整しながらというところではありますが、その前の輸送ルートとして活用することについて必要な道路対策という部分につきましては、当然ながら道路管理者として県の土木部道路計画課、道路管理課にもかかわってもらって、それを先ほど西尾次長等からも説明ありました環境省中間貯蔵チームとも協議、町とも地元の意向、影響等も確認させていただいて進めていく、そういう状況であるというふうに認識しております。

今後ともよろしくお願いいたします。

○議長（塚野芳美君） 午後1時まで休議いたします。

休 議 （午後 零時01分）

〔11番（黒沢英男君）退席〕

再 開 （午後 零時59分）

○議長（塚野芳美君） それでは、再開いたします。

4番、堀本典明君。

○4番（堀本典明君） 先ほどご答弁いただいた中で、まず県道36号線のほうは県のほうでも本年度から設計に入るということで、引き続き設計が終わった後すぐ工事に進んでいただいて、急になかなかできないとは思いますが、ぜひ本格輸送が始まるまでは整備していただけるように、その辺協議またしていただけるかどうかということも確認させていただきたいのと、例えばそれが間に合わない、今回のパイロット輸送でやられるのですが、対向車が非常にスピードが速かったりするところもあるので、看板を上げただけではちょっと私は対策に不十分かなというふうに思いまして、路面に段差をつけるなど速度低減につながるような何か対策ができるかどうか、そういったところをお考えかどうか教えていただきたいのと、あと先ほどの曲田の件ですが、また経路これから見直しというか検討されるということですが、県道広野小高線の橋梁、富岡川の橋梁のところも補修が終わっていると思うので、そういったところを通していただくと比較的交通量少ない中で国道へのアクセスが可能なのかなというふうに思いますので、そのあたりのご答弁をいただきたいと思います。

○議長（塚野芳美君） 西尾さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設チーム次長（西尾 崇君） 1点目答えさせていただきます。

環境省としましては、昨年度パイロット輸送ということで、今年度はパイロット輸送の大体3倍ぐらいということで大量輸送にはまだほど遠い状況ではございますけれども、本当であれば2桁超えるような輸送をしないと福島県全体が片づいていきませんけれども、いずれにしても今年度は3倍程度の輸送量で進めたいと思っております。この3倍程度の輸送量に対してとりあえず今の段階では、先ほどの2つの改善点、1つは内閣府の詰所、これをちょっとどけていただくあるいは下げていただく。もう一つは先ほど看板という話をさせていただきました。看板については先ほど話ありました段差を設けるという話ございました。いいアイデアいただきましたので、道路上をいじるということで、道路管理者さん、それから警察さんと調整が要りますが、いずれにしてもスピードを落とさせていただくと、非常に大事なことでございますので、これは関係機関と連携をして相談をさせていただきたいというふうに思っております。

これが1点目でございます。

○議長（塚野芳美君） 石川さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設担当参事官室参事官補佐（石川洋一君） 石川です。2つ目の広野小

高線の件なのですけれども、こちらにつきましては今回今使っているルートというのはパイロットで使っていたルートでございまして、こちらについては今回使ったＪＶのヒアリングなんかをかけましても特に安全に運べたという視点がありましたので、今回このルートを設定したという経緯がございます。ただ、今広野小高線という選択肢もいただきましたので、先ほど申したように、排水工事とか路面復旧工事と重なる場合は、そちらも選択肢に入れながら考えていきたいなと思っております。いずれにしろ、今いいアドバイスをいただけたと思いますので、こちらについても選択肢として検討できたらなと思ってございます。

以上です。

○議長（塚野芳美君） 伊藤さん。

○福島県生活環境部中間貯蔵対策室主幹（伊藤賢一君） 福島県のほうでも先ほどの答弁とも重なるところでありますが、今回の中間貯蔵施設の輸送に関して県管理道路の活用等については、日ごろより土木部道路担当、道路計画課、道路管理課とも協議しながら進めております。そうした中での道路整備本体についてのご意見ということにつきましても、本日は出席しておりませんが、戻りましてそういったご意見、ご質問等をいただいたということにつきましては、道路サイドのほうにもつなぎまして対応してまいりたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○議長（塚野芳美君） ４番、堀本典明君。

○４番（堀本典明君） ありがとうございます。県道のほうはぜひ本格輸送までには間に合うような形で、スピード感を持ってやっていただければということで、それは要望させていただきます。

曲田地区をパイロット輸送ということで選ばれて前回もやられたということですが、やはり比較的町内ですので、町民の方を含め交通量多いと思うのです。なので、もう少し交通量の少ないところを選択していただきたいと思うので、今回の件で特にトラブルもなかったからいいよではなくて、ぜひ比較的交通量を少ないところを選ぶという考えを持ってやっていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（塚野芳美君） 西尾さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設チーム次長（西尾 崇君） １点目だけちょっと補足させていただきます。

本格輸送までという話をいただきました。環境省としまして今の本年度の輸送を何と呼ぶのかというのは実は議論ございまして、この点につきましてはもともと新聞報道でもありますとおり、ことしがパイロット輸送なのか本格輸送なのかという議論ございます。これにつきましては、受け入れ自治体であります大熊町さん、双葉町さんにご了解をいただかないと、これは動かないので、まず両町さんにお話しさせていただいたという状況でございます。大熊町さんにつきましては、本格輸送で構わないよという話をいただきましたけれども、双葉町さんからは本格輸送という形ではなくて、パイ

ロット輸送という位置づけで運んでほしいという話をいただいております。ただ、そうはいってもちゃんときちんと安全に運んでいくという作業ですとか、そういった確認作業をしていくという、これがパイロット輸送のそもそもの考え方でございますので、これは大熊町さんと双葉町さんとたがえることなく、きちんと確認作業を進めていきながらやっていくというところは、環境省としては基本的なスタンスとして持っているところでございます。そういった中で今年度の輸送の名称を何と呼ぶのかというのは、いろんなところで違う名称が行き交うと私どもも説明も難しいですし、受け取られる各地域の方々も心配されるということもありますものですから、環境省として今のところ本格輸送という名称はあえて使わずに、今年度の輸送あるいは28年度の輸送という言い方をさせていただいております。

ただ、先ほどお話ありました本格輸送までという話は、恐らく大量輸送までというふうな思いかなというふうに思っておりますので、そのあたりにつきましては段階的に輸送量ふやしていくというふうな予定で考えておりますので、そのあたりをどのタイミングでどういうふうになるかということにつきましては、きょうは28年度の輸送ということでお話しさせていただきますけれども、今後輸送量がふえていく段階に応じて説明を町当局さんと相談しながらさせていただきたいなというふうに思っております。

これ1点目の補足でございます。

○議長（塚野芳美君） 石川さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設担当参事官室参事官補佐（石川洋一君） 2点目につきましてなのですが、こちらにつきましても交通量という今お話がございましたので、非常に大事な視点と思っておりますので、こちらは町当局と相談しながらルート設定をさせていただければなと思っております。

ご指摘ありがとうございました。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

6番、遠藤一善君。

○6番（遠藤一善君） 済みません。1ページの実績のところではスクリーニング結果は出ていますが、根本的に運んでいる、おろす前、運んでいる状態で運んでいるトンパックの放射線量というのは大体低いものから高いものでどのぐらいあったのか、ちょっと教えてください。

○議長（塚野芳美君） 石川さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設担当参事官室参事官補佐（石川洋一君） 石川です。こちらにつきましては、仮置き場を搬出する前に輸送車両の前方、後方、側方で1メートル離れのところで放射線量を測定させていただいております。こちらの結果なのですが、輸送車両7,529台、全台測定をいたしまして、95%が1マイクロシーベルトパーアワー以下でございました。一番高いものでも7.5マイクロシーベルトパーアワーでございました。

以上です。

○議長（塚野芳美君） 6 番、遠藤一善君。

○6 番（遠藤一善君） 今の結果を聞きますと、実際に住民が受ける感覚というのは風評に近いような状態になってしまうのかと思うのですが、先ほどの通過でゼロということで、当然通過は車が走っているのです。そこではかっているのは、これぐらいなものを運んでいればゼロになるのは当たり前で、ただやはり交差点でとまるとか、パーキングでとまっているとかというときに、やはり私も檜葉のパーキングでとまっている車を走っているときに見ると、ここにとまっていて大丈夫かなという感覚があるのです。なのでやっぱりそういう部分もきちっと情報を出していただかないと、不安になる人もいますので、その辺はきちっと情報の伝達をして車がいても大丈夫なのだとすることをきちっとしていただきたいと思います。

それから、先ほどと若干同じなのですが、曲田のところなのですけれども、このルート上には新しくできる町の診療所もございますし、パイロットした昨年とは変わってきているので、そういう施設の状況とかも加味として変更していただきたいというふうに思いますので、その辺もご検討のほうよろしくをお願いします。

○議長（塚野芳美君） 石川さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設担当参事官室参事官補佐（石川洋一君） ご指摘ありがとうございます。施設の状況につきましては、こちらのほうがちょっと勉強不足だったなと思っております。ご指摘も踏まえまして、町当局と調整しながらルート設定のほうをさせていただければなと思っております。

ありがとうございます。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

13番、渡辺三男君。

○13番（渡辺三男君） ちょっと二、三点お聞かせください。

パイロット輸送の実績からいろいろ出ておりますが、車のスクリーニングの結果、大熊、双葉から出てくるとき、全ての基準値が1万3,000 c p m以下だったということで書いてありますが、1万3,000というのはかなり高い数字なのかなと思うのです。除染した土壌やいろんな部分の輸送してくるものはかなり低いのかなと思うのですが、一番問題はやっぱり車の出入りが一番問題になるのかなと。通常震災前だとすれば、これの10分の1ぐらいの数字とか5分の1ぐらいの数字が国の基準だったと思うのです。それが震災時緊急対応で1万3,000 c p mにしてそのまままだ運用しているのです。だからこれが一番害をなす根源だと私は思っているのです。この辺は全然下げる手だて環境省のほうでは考えていないというの私の理解できないのですが、その辺の考え方を教えてください。

あと28年度の輸送量ということで15万立米程度、これ本格輸送になるのかパイロット輸送になるのか、先ほど答弁していましたが、輸送の呼び方なんかどうでもいいのです。私側からしてみれば、一

日も早く輸送を完了していただきたい。と申しますのは、やっぱり中間貯蔵の置き場になっている大熊さん、双葉さんの承諾がいつ出るかということなのだと思いますが、国のほうではどういうお考えなのか、このままずるずる引っ張っていくのか。この15万立米を出す予定しているのは土地は確保済みなのか。例えば確保済みだとすれば先の見通しはどうなのか、その辺も十分お答えください。

あと輸送ルートの中で、先ほど36号のバイパスの件で福島県さんから答えてもらっていましたが、あのバイパスは震災前から富岡町では強く要望している部分なのです。震災からもう5年たって6年目に入ってやっと調査測量、輸送のことを考えれば当然工事に着手していなければならない状況なのかなと思うのです。県さんもそうだし国のほうも全て後手後手に回っているのです。我々地域住民はどこに置かれているのだということなのです。その辺を十分踏まえて先行投資してやってもらわないと困るのですよ、これ。安全対策、安全対策、直角に曲がっている道路に対して安全対策なんて幾ら組んだってたかだか知れていますよ。やっぱり曲がりをとったりまったりするのが筋だと私は思いますので、当然測量をしなければ前には進めませんので、早急に測量していただいて、図面つくったり積算して、早急に着工してもらわないと困ります、实际的に。その辺をよろしくお願いします。

あとは騒音問題なのですが、騒音問題確かに国の基準で騒音は70とかいろいろあります。基準の数値からいうと基準は70ですか。基準からいうと確かに基準値内にはおさまっていると思いますが、ふだん見られないトラックが走って歩くことによってすごく不安を感じるのです。騒音云々の問題ではないのです、これ。だから一日も早くやっぱり輸送は終わらせてもらわないと、これは環境省の手腕にかかっているのしょうけれども。先ほど答弁の中で騒音の一番の因果関係はスピードにある。確かにスピードが一番なのかなと思います。先ほどいろいろ質問の中でタイヤとか車の性能とかいろいろな部分上げられていましたが、舗装の路面なんかも上げていましたよね。やっぱりスピードが一番なのかなと思うのですが、スピードは制限速度というのがありますから、5キロ、10キロで走れば騒音はほとんどないぐらいになろうかなと思うのですが、そういうスピードで走られたのではほかに迷惑になりますので、スピードに関して騒音を抑えようというのは多分無理なのかなと思うのです。だからその辺を十分踏まえて早急にやっぱり直角に曲がる部分なんかあれば当然そこではギアダウンもしますし、ダウンすればまた吹かすこともあるし、そういうものを完璧にできることからやってもらわないと話は進まないのです。

今年度の中間貯蔵に運ぶ線量が15万立米となっていますが、これだって全体からすれば10分の1とか20分の1の話になろうかと思うのです、こんなことでやっていったら10年も20年もかかってしまうでしょう。テレビ、新聞の報道なんか見ますと、ほとんどの地権者がまだゴーサイン出していないような状況でしょう。その辺が一番肝心なのですよ、こんな説明を受けるよりも。その辺をしっかりやってもらわないと困りますので、どのように考えているのか説明ください。

○議長（塚野芳美君） 坂川さん。

○福島環境再生本部長（坂川 勉君） 幾つかご質問、ご意見ありましたけれども、まず最初に中間

貯蔵への輸送をできるだけ早く終えてもらいたいと、こういうご意見がありましたので、その点につきましてまず最初に私からお答えを申し上げます。

そのようなご意見は県内の市町村を初めとして多くの関係者からいただいているところでございますので、それにできるだけ応えていかなければならないわけではありますが、一番の課題はやはり用地の確保をいかに早く行っていくかということでございます。今現在4月末時点では契約件数が113件ということになっておりますが、まだまだ足りないと。どんどん契約をして用地を確保していかなければならないわけでございます。そのためこの4月から福島環境再生事務所の用地担当職員を増加させました。3月までは75名でありましたけれども、今現在110人体制ということになっておりまして、さらに一生懸命取り組んでまいりたいと思っております。

それと今後の見通しなのですが、3月に5年間の長期見通しというものを私ども作成いたしまして、公表をいたしました。それによりますと5年後、平成32年度までに累計の輸送量という数字をつくっております、これ幅がありますけれども、500万立方メートルから1,250万立方メートル程度、累計でこれだけのものを平成32年度までに輸送していくということでございます。これを達成するためにはやはり用地をどんどん確保して施設を整備して行っていくということが必要になりますので、この見通しを達成していくために引き続き頑張ってもらいたいと思いますし、またあわせて輸送量がふえてまいりますと、やはり安全性というものもさらに徹底していかなければいけないと思っておりますので、その点注意しながら進めてまいりたいと思っております。

○議長（塚野芳美君） 西尾さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設チーム次長（西尾 崇君） あとスクリーニングについてお話がございました。あと騒音のお話ございましたので、この2点についてお答えさせていただきます。

まず、スクリーニングについてでございますけれども、この1万3,000 c p mという基準につきましては、これは政府の原子力災害対策本部のほうで決めている数字でございます、これ環境省の輸送車両だけでなく、東電の車両も含めて全て1万3,000 c p mを使っているというふうな状況でございますものですから、環境省でこれを変えるというのはなかなか難しい状況でございます。これが1点。

ただ、一方現状として今どれぐらいのデータが出ているかということでいきますと、大体1,000 c p m以下のものばかりでございますので、ほとんど影響がないのかなというふうに私ども思っております。

それから、2点目の騒音についてでございますけれども、騒音につきまして先ほどもスピードの話がございました。10キロ、20キロのスピードで走れないよねという話ございまして、そこはおっしゃるとおりでございます。実はスピードに関しましては、5キロ、10キロ落とすだけでも今データちょっと手元にございませんですが、感覚論的に言いますと1デシベル、2デシベルぐらいの数字は簡単に5キロ、10キロとか20キロとか下げていけばある程度出てくるような感じになりますので。かつJ Rの

下をくぐるような、あそこの急カーブのところというのは当然トラックもスピードを落としますのでそういうスピードを落とすところにつきましては、騒音については大きな影響がないような形で輸送ができるかなというふうに思っております。ただ、もちろん減速、加速というのはやはり騒音の発生の大きな要因になりますので、急加速のほう、こちら余りするとやはり騒音としては大きく出るというふうな状況がございますので、このあたりはよく考えながら周辺の影響ができるだけ少なくなるように輸送を進めていきたいというふうに思っております。

○議長（塚野芳美君） 伊藤さん。

○福島県生活環境部中間貯蔵対策室主幹（伊藤賢一君） 今ほどのご意見につきましても、先ほど堀本議員にいただいたことに対する回答とも重なるところでありますが、今ほどのところでも震災前からの背景、そのあたりで後手後手に回っているのではないかということにつきましても、あわせて県土木部のほうと協議して今後の対応についてということで、こちらの対応できるものと検討をしてみたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○議長（塚野芳美君） 13番、渡辺三男君。

○13番（渡辺三男君） ありがとうございます。今36号線に関してはぜひ早急な着工、完成を目指していただきたいと思います。

あと用地の関係なのですが、私富岡ですので、大熊さん、双葉さんに口入れる気はないし、ただ地権者の人たちが大分不安になっている問題があるかと思うのです。用地取得するために人間ふやしたからといって解決する問題ではないと思うのです。その不安になっている部分を取り除かない限りは絶対無理なのかなと思いますので、その辺を十分検討課題として進めていってもらえば、早期の土地の取得ができるのかなと思いますので、よろしくお願いいたしますと思います。そういうことによってやっぱりいろんな問題が解決してきますので、ぜひそのことに尽きると考えていますので、よろしくお願いいたしますと思います。

あとスクリーニングの結果で1万3,000 c p mということを行いました、車のほうの測定は1万と言ったのですか、1,000と言ったのですか、先ほど。

〔「1,000」と言う人あり〕

○13番（渡辺三男君） 1,000 c p m。かなり低い数字で推移しているのかなと思うのです。我々の不安をあおがないためにも、やっぱりそういうことをきちっと報告でいただきたいのです。国の基準が1万3,000であっても、環境省さんは2,000をめどにそれ以下にする努力していますよとか、そういう答えが欲しいのです。国で決めている基準がこれだからこれ以下だよということではなくて、1,000以下ということで私は一安心しました。車で持ち出してくるセシウム、放射能がかなり多いと思うのです。震災後いろいろ検査した結果だと、6号線が第一原発から真っ赤になって広野辺まで赤いのを引っ張っていたというのが現実だったのです。今もそういう状況は見られるのかなと思うので

すが、1,000以下だということで私一安心しましたので、その辺も数字に安心しないで、ちょっとでも下げていただければ、右倣いでほかの東電さんとかもそういう努力をするのかなと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

あと、全体的に言うと、とにかく帰町を目指していますので、帰町してから大型トラックがつながって通るような、不安を感じるような状況だけは避けていただきたいということで、ぜひ一日も早く本格除染に入れることを願っていますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

要望しておきます。

○議長（塚野芳美君） 西尾さん。

○水・大気環境局中間貯蔵施設チーム次長（西尾 崇君） スクリーニングにつきましては、先ほど状況については説明させていただいたとおりでございますけれども、ほとんどが1,000c p m以下ということでございましたが、こういった形で皆さんに安心していただけるか、どういうふうな形で公表するかとか、そのあたりにつきましてはこちらでも検討させていただきたいと思ひますし、それから環境省側で1万3,000を下回ったものについてどうするかについても、これも私どもちょっと宿題とさせていただければというふうに思っております。いずれにしても、帰町が間近に控えているということが富岡町さんにとっての一番の喫緊の課題だということは、私どもも十分認識しておりますので、そのあたりも考え合わせて今後できるだけ早く中間貯蔵施設への輸送が終わるように頑張っていきたいと思っておりますので、ご支援方よろしくお願いしたいと思ひます。

○議長（塚野芳美君） 坂川さん。

○福島環境再生本部長（坂川 勉君） 用地の確保に関しまして地権者の方々、非常に不安に思っておられる方もいるということでございました。私ども用地の担当者が個別の地権者にそれぞれ訪問してお会いをして、いろいろご要望、ご質問、ご意見をお伺いしながら、なるべく丁寧に説明を続けているところでございますけれども、それぞれ地権者の方々個別の状況も異なります。いろんなご意見、ご要望がございます。そのようなことについてもなるべく事務所の中で情報を共有しながらどういう説明が最も適切であるのか、よく考えながら引き続き取り組んでまいりたいと思ひます。

どうもありがとうございました。

○議長（塚野芳美君） そのほかございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（塚野芳美君） なければ、これをもって質疑を終了いたします。

以上をもちまして、付議事件2、中間貯蔵施設への搬入についての件を終わります。

ここで説明者の入れかえがありますので、1時35分まで休議いたします。

休 議 （午後 1時25分）

再 開 （午後 1時34分）

○議長（塚野芳美君） 再開いたします。

続きまして、付議事件 3、平成28年度 除染・家屋解体についての説明を求めます。

坂川さん。

○福島環境再生本部長（坂川 勉君） それでは、次の除染と家屋の解体等についてご説明をする前に、ひとつ私のほうからおわび申し上げたいことがございます。

先週17日の夜に富岡町の仮設焼却施設の廃棄物ピット内でぼやが発生いたしました。見つけ次第すぐに消火活動を開始いたしまして、鎮火したわけでございますけれども、このようなぼやが発生したこと、また関係する皆様方にご心配をおかけしたことに关しましておわび申し上げます。まことに申しわけございませんでした。

原因については、廃棄物ピット内に廃棄物として投入されました農業用肥料の成分であります石灰が水に触れまして熱を持って発火したということでございまして、ぼやの範囲は0.24平方メートルということでございます。今後このようなことがないように廃棄物の分別の徹底を行ってまいります。安全に運転管理できるように努めてまいりますので、引き続きご指導をよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 加藤さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（加藤 聖君） 富岡町を初め11市町村の直轄除染を担当しております担当課長の加藤でございます。よろしくお願いいたします。私のほうからまず富岡町における除染結果及びフォローアップ除染についてということで、表紙緑色の横置きの資料、こちらを使いまして説明をさせていただきます。座って失礼いたします。

表紙をおめくりいただいて1ページ目でございます。右方に1と書いてあるのがページ数でございまして、以降このページを用いまして資料のほうご説明をさせていただきます。富岡町除染の効果、平均線量ヒストグラム（全体）ということで、空間線量率1メートルの線量につきまして、除染前のものをオレンジ、除染後のものを青色の棒グラフにしたヒストグラムでございます。除染後の測定時期ということで、一番下の米印3つあるところの1つ目の米印のところにございましてとおり、測定期間は平成25年8月8日から平成28年3月31日ということでございまして、昨年度末までに除染が完了しました範囲につきまして集計したデータということでございます。除染前の平均値が1.90マイクロシーベルトパーアワー、1時間当たり1.9マイクロシーベルトということになっておりましたが、これが除染後の平均値ということで0.87マイクロシーベルトパーアワーということになっております。これはいわゆる生活圏と言われる宅地、道路、農地とそれらの近隣、原則20メートルの森林につきましての除染結果のデータということでございます。

おめくりいただきまして、2ページ目をごらんください。2ページ目が先ほどの宅地、農地、道路、森林から宅地を抜き出してグラフにしたものでございます。同様に1メートル線量でございまして、除染前が1.92マイクロシーベルトパーアワー、除染後が0.71マイクロシーベルトパーアワーというこ

とになってございます。測定時期は先ほどのものと同様でございます。

おめくりいただいて3ページ目でございます。平均線量のヒストグラムで宅地を見ますと、除染前1.92のものが0.71、先ほど申し上げたとおりでございます。おおむね線量として除染後下がっている様子がごらんいただけるかと思います。ただ、他方青色の線量、除染が終わった後も例えば2マイクロを超えるとか2.1マイクロを超える、2.2マイクロを超えるというところに青いところが残っているところございまして、このような除染後も線量が高い箇所も残っているという、こういう状況でございます。

それをわかりやすくマップにしましたものが4ページ目、5ページ目をごらんいただければと思います。4ページ目が線量マップの除染前のものでございまして、5ページ目が除染後のものでございます。除染前は富岡川から北側を中心に黄緑色もしくは緑色ということで、黄緑色で申し上げますと、左下のほう凡例小さくて恐縮ですが、1.9より大きく3.8マイクロシーベルトパーアワーより小さいと、こういうものが富岡川北を中心にあったという状況でございますが、除染後のほうごらんいただきますと、それが濃い緑もしくは水色というものになってきて、線量としては下がりつつある状況にあるということがごらんいただけるかと思います。

それで6ページ目でございますが、27年度末までの除染は今ご説明した5ページ目までの状況でございますが、6ページ目からが今後の話ということで、フォローアップ除染についてということでご説明させていただきます。特別地域内除染実施計画ということで、富岡町について策定したもの、当初25年6月策定いたしまして、25年の12月に改訂しておる国のつくった計画でございますが、これにおける目標、以下のとおりとなっております。追加被曝線量が年間20ミリ未満である地域につきましては、長期的な目標として追加被曝線量が年間1ミリシーベルト以下になることを目指すとされております。このため一旦面的な除染、今農地等につきましては一部除染を継続しておりますが、宅地除染終わったところからもう一度調査をいたしまして、28年3月からフォローアップ除染という形で実施をしております。

そのフォローアップ除染の説明が7ページ目となりまして、除染後先ほどの棒グラフでいうところの青い棒グラフのデータ、もしくは事後モニタリング、こういうものを除染の後に行っていくこととしておりますが、そういうものに加えて、富岡町さんが実施しておられます独自の除染後の線量調査結果、こういうものもいただいて踏まえた上で取り残し、新たに汚染が確認されるなど除染効果が維持されず、空間線量に影響を与えているような箇所、こういうものがあつた場合には個別に現地を調査して原因究明を行いまして、必要なフォローアップ除染、これを行っていきたいというふうに考えています。フォローアップ除染の進め方ということで真ん中から下のところですが、対象箇所の抽出というところで水みちになっているなど、除染後に線量が再び高くなるような箇所、もしくは施行が十分でなくて取り残しがあるというようなことが万が一でもあるといけないということになりますので、そういう局所的、部分的に高くなっている箇所、これを調査をいたしまして、その調査結果

に基づいてフォローアップ除染ということで追加の除染を実施していきたいと、このように考えております。

8 ページ目をごらんください。左上にございますとおり、こちらの資料、平成27年12月に環境省の本省で開催しております環境回復検討会でフォローアップ除染の基本的な考え方ということで取りまとめられた資料でございますが、今回の福島第一原発事故、この事故によりまして放射線管理区域ではなく、敷地外にさまざまな状況で放射性物質が飛散した状況というところがございまして、これを一律決まった方法で1回目の除染を行ったということですが、その効果は場所、一軒一軒のお宅によっても違いますし、お宅の中でも裏山になっているところ、もしくはお庭の植栽があるところ、未舗装面なのか舗装面なのか、こういうことによって効果が違うというところもございまして、フォローアップの実施の基準とか空間線量率の低減の目標を一律に決めることは難しいというのが現状でございます。このためフォローアップ除染につきましては、現地をよく確認させていただいて、個々の現場の状況に応じて原因を把握した上で除染を実施したいと、このように考えております。下の米印のところでございますが、文字が小さくて恐縮ですけれども、これまでに私ども11市町村直轄除染を行っておりますが、除染後の空間線量率、平均値と最大値について一定の相関が見られる場合があるというふうに考えておりまして、除染後の宅地平均1マイクロシーベルトパーアワー、これを超えるお宅にはスポット的に3.8マイクロを超える測定点が存在するというようなことが測定されておりますので、特に除染後に平均1マイクロをまだ超えているようなお宅については、重点的に調査して対応していく必要があると、このように考えております。

その資料が9 ページ目でございまして、これが横の軸が宅地の平均空間線量率ということで、宅地で5点から10点、多い場合は20点ぐらい宅地内測定いたしますが、その平均値が横軸でございます。この宅地の平均値1マイクロを超えますと、縦軸にございますとおり、宅地内の空間線量率の最大値ということで5点から10点、もしくは20点とったうちの一番大きい値、これをプロットしていくと宅地平均1マイクロを超えるお宅では3.8マイクロ、もちろん下回るお宅も多うございますが、上回るお宅もあるということが除染結果からの分析からわかっているということでございますので、1マイクロ以上のお宅については特に念入りに現地調査をして、追加のフォローアップ除染を実施していきたいと、このように考えておるということでございます。

10ページ目でございますが、宅地のフォローアップ除染方法のイメージということでございまして、これもさまざまな市町村で一旦除染が終わった後に線量低減が十分でない、もしくは再び線量が上がる箇所ということが経験則的には幾つかわかってきているところがございまして、左側からのり面とかのり尻、こういうところにつきましては線量が高くなっている場合があるということで、1回目堆積物の除去ということで行わせていただいておりますが、必要に応じて表面削り取りなども行いまして対策をしていきたい。その下舗装面とコンクリート面、もしくは舗装面と未舗装面の境界、舗装面やコンクリート面で特にクラックなどが入っているような場合、奥にしみ込んだ線量が1回目の除染

では取り切れないと、こういうものについての対策。もしくは舗装面と未舗装面の境界、こういうところは水みちになりやすいということで線量が再び上がる可能性があるということでございまして、そういうところを念入りに探して対応していくと。また、雨垂れ、縦樋の出口、こういう水がたまりやすいところにつきましても対策をしていきたいと、こういうこととございまして。また、一番右の植栽下ということで、植栽の下に関しましては根などがあって1回目の除染で十分に線量が下がり切っていない場合がございますので、これも表土を削り取って新しく被覆をするというようなこととございまして。代表的な箇所はこういうこととなりますが、それ以外にも一軒一軒お宅によって状況が異なりますので、現地を念入りに調査いたしまして、必要な箇所、対応していきたいと、このように考えております。

最後11ページ目でございます。事後モニタリング、フォローアップ除染のスケジュールということでございまして。平成27年度の除染から28年度、29年度ということで実施予定の事後モニタリング、フォローアップ除染のスケジュールということでお示ししております。除染、宅地につきましては、27年度実線になっておりましてほぼ終わっておりますが、一部、例えば一例を挙げますと家屋解体をした後に除染を行っていただきたいというようなご要望、地権者からいただいた場合にはそのようなものについて28年度実施していくということになりますし、なかなか最初のほうはご同意をいただかず後に、皆様が除染が進んできてそろそろ除染してもいいかということで、もともと除染のご同意をいただいていない方がご同意をいただいた場合、このような場合につきまして順次宅地除染を一部行っていくところもございますので、28年度のところ点、点、点ということになっております。宅地以外の農地等につきましても、おおむね28年度の上半期で終わらせたいと考えておりますが、一部施行の都合上、下半期に入るものもあるかもしれないということで点、点、点ということで書かせていただいております。いずれにいたしましても、除染実施計画で定めております本格除染につきましては、28年度の上半期でおおむね終了させることができるのではないかと、今のところ想定しております。また、その後除染の終わったところから、28年度事後モニタリングということで除染の効果が維持されているかどうかということを確認するための事後モニタリングを行わせていただきたいと考えております。加えて28年度フォローアップ除染ということで、線量が総体的に高いお宅、箇所、こういうところをまず優先して28年の3月から取り組んでいきたいと思っております。まずは上半期線量の高いところのお宅や箇所から実施していきたいと考えてございまして、その量、状況を踏まえまして下半期、それ以外のところについても順次フォローアップ除染を行っていききたいと、このように考えております。その上でフォローアップ除染の状況も踏まえまして、さらに29年度事後モニタリングを行い、29年度フォローアップ除染ということで28年度の事後モニタリングもしくは29年度の事後モニタリングの状況も踏まえて、必要なフォローアップ除染、さらに29年度も行っていきたいと、このように考えております。

私からは以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） 続きまして家屋の解体ですとか廃棄物処理につきまして私から説明させていただきます。私、環境省福島環境再生事務所で建物の解体ですとか災害廃棄物の処理を担当している中川と申します。よろしくお願いいたします。座って失礼いたします。

お手元にあります青い色の資料に沿いまして、まずは建物の解体工事の現状につきまして説明をさせていただきます。一番最初の項目でございますが、先月末時点で家屋の解体の申請件数でございますが、約1,300件ほど頂戴しておるところでございます。

昨年度までの実績が次の項目でございますが、平成26年度は約40件程度、昨年度から富岡町における解体工事が本格化いたしまして、昨年度の実績が456件となっております。合計で約500件という状況でございます。そういった状況の中で申請件数と実績を差し引きしますと、約800件程度ございまして、それを今後どのように進めていくかというのが次の項目でございますが、28年度のスケジュールということで1つ目の項目でございますが、その1工事ということでございまして、駅前周辺の復興エリアに位置づけられている箇所申請をいただいているもの31件につきまして、公告を先月させていただきました。開札が先週実施されました。現在事業者の契約選定手続中でございます。残りの工事の発注でございますが、環境省といたしましては、次の項目でございますが、大型工事を考えてございまして、現時点で発注手続中ということで速やかに手続を進めてまいりたいと思っております。1つ目の米印でございますが、昨年度の解体工事の発注の手続につきまして見直しをさせていただきまして、本年度から大型工事につきましてはBランク同士の共同の企業体の参加を可能とさせていただきます。また、先ほど申し上げました残りの800件程度の件数ですとか工期、どのような件数でどのような工期で発注をするのかにつきましては、ただいま環境省内で検討中でございますけれども、考え方といたしましては、年度内にしっかり着実に安全に実施するという方向で幾つかに分けるようなことも視野に入れて発注を予定してございます。

課題でございますけれども、1つ目の項目でございますが、申請件数、現時点、先月末時点で1,300件程度でございますが、町役場からの罹災証明書の発行件数と比べますと大きな開きがまだまだございますので、さらなる解体申請の促進というのは環境省といたしましても重要なポイントだと思っております。本年2月に広報を通じまして解体申請の促進をさせていただきましたが、その効果が徐々に出てきておりますが、さらなる促進施策というものを町役場とも連携をして実施していきたいと考えてございます。最後の項目でございますが、解体の申請でございますが、ある程度ほかの市町村と同じように期限の設定というものも今後必要になってこようかと考えてございます。このあたりにつきましては、まだ具体的な検討をこれから進めていくところでございますので、引き続きご意見を頂戴しながら町役場とも調整して考えて検討してまいりたいと考えております。建物の解体工事につきましては、説明以上でございます。

おめくりいただきまして、本日災害廃棄物の関係の議題でもう一つ、富岡町における仮設焼却施設につきましてあわせましてご説明をさせていただければと思っております。1でございますけれども、当初の運営計画というところでございますが、仮設焼却炉のまず処理期間、平成27年3月から29年3月ということを設定させていただいております、当初の運営計画では右側の数字にありますとおり災害廃棄物、除染廃棄物を含めまして合計で約23万トンを予定してございました。

2につきまして、平成27年の処理実績でございます。平成27年度につきましては、約7万3,000トンの廃棄物の処理を実施いたしました。内訳につきましては、右側にあるような内訳になってございます。一番最後の丸ぼつのところでございますが、焼却施設の周辺ですとか焼却施設自体で定期的に環境モニタリングを行ってございまして、施設内ですとか境界付近、空間線量率、放射性物質濃度のモニタリングの結果につきましては異常がなく、安全に管理されておる状況でございます。

おめくりいただきまして、こちらはただいま申し上げました環境モニタリングの状況の数値でございまして、排ガスの観点、地下水の観点から計測してございます。真ん中少し右の測定結果ということに、いずれにおきましてNDということございまして、不検出ということで安全に管理がされておるというものでございます。

次のページでございます。こちらが28年度の今年度の運営計画でございまして、本年度は5万6,000トンの廃棄物の処理を計画しておるところでございます。

一番最後の項目、今後でございますが、平成28年度も先ほどの説明のとおり除染作業ですとか家屋の解体工事、また片づけごみの回収を28年度も着実に実施させていただく計画としてございます。そうしますと、今年度も最後まで廃棄物が発生するということが見込まれているところでございます。また、帰還困難区域における除染ですとか廃棄物の方針が未定な状況でございます。そういう状況を踏まえますと、先ほど一番最初に申し上げました現在の運営期間、来年の3月までというものにつきましては、現実とそぐわない部分がございます。こうした運営計画につきましては、帰還困難区域における除染の方針ですとかが決まり次第、改めて説明させていただき、ご相談させていただきたいと考えておるところでございます。

私からの説明、以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 説明が終わりましたので、質疑を行います。

8番、宇佐神幸一君。

○8番（宇佐神幸一君） 2点ほどお聞きします。

まず、除染のほうで10ページの宅地のフォローアップのイメージがあるのですが、今私が住んでいる行政区ではどうしても森林が近くありまして、実際にそれがあ程度数メートル高い木が多く並んでいる地域でございまして、实际的に宅地から20メートル森林についてはやっているのですが、基本的に高い木においての枝が、はっきり言いますと、その時期になりますと落ちる。そうすると、またある程度線量が、最初除染やったときに確かに落ちました。ただ、どうしても秋以降になるとまた

上がってしまう。これを繰り返す状況になるかと思うのですけれども、そういう状況下においてこれから森林を近くに持っている宅地、1回下がったとしてもそういうおそれが出てくる場合、どういう形で対処していったらいいのか。また、環境省としてはどう考えているのかということをお聞きしたい、まず1点目お聞きしたいのと、あと2点目は解体のほうで最後の今後の進め方においての中の1番目、前回の解体のときにもありましたトラブルとして、持ち主さんまた地権者、地権者の方と片づける、環境省の指導で片づける業者さんとでいろいろともめごとがあったと聞いております。その状況下においてやっぱり環境省が主としてやっている事業であれば、環境省が責任を持ってその対応をするべきだと思うのですが、どうしても業者に振ってしまう、そういう状況下というのはやっぱりおかしいのではないかと、そういう形においてはこれからの解体除染どう考えていくのか、その2点お聞きします。

○議長（塚野芳美君） 加藤さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（加藤 聖君） 除染対策課長、加藤でございます。1点目のご質問、宅地の近くの森林、これについて枝が落ちて線量が上がるというお話がございました。林野庁とか農水省の結果を見ますと、基本的には地面に5年で落ちて、地面のほうに線量が集まっているというデータがございますが、よく現地の状況を確認させていただいて、宅地の線量を下げる際にどこを除染をすると一番線量が下がるのかということ、よく現地を確認させていただいて、必要な対応をとっていききたいと、このように考えております。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） ご質問ありがとうございます。ご指摘のとおり、昨年度の解体工事と家屋の中の片づけの関係ですとか所有者様となかなか調整がうまく環境省の調整が悪くもめごと等あったと考えてございます。昨年度の解体が実績491件ですが、大型の工事がもう年の終わりごろから予約始まってきたところもあり、少し我々も混乱してしまって申しわけないところだった状況でございます。そういった反省を生かしまして、本年度はトラブルといいましょうか、仮置き場の搬入の計画ですとか片づけごみとの連携ですとか、一層しっかり反省点に基づいて計画をしてございますので、そういったことがないようにしっかり環境省として事業者には指導徹底して、環境省としても適切な工事を実施してまいりたいと思っております。

○議長（塚野芳美君） 8番、宇佐神幸一君。

○8番（宇佐神幸一君） 1番目の質問の回答をいただいたのですが、前回この話出したときも林野庁の関係で実際的には森林の除染についてやるべきだと言ったら、やる必要がないというよりも影響度が少ないということは確かに言われました。ただ、実際的に土に落ちてははっきり言えば後に土に入ってくるということであるかもしれませんが、木にある程度線量がついていれば必ずある程度、多少の落葉樹なら落ちた状況下においてそれがついてきてまた落ちてしまう。多少なりとも線量というの

は下がったと思ってもまた上がってしまうのではないかと、私は心配しているのですが、今の回答であればそういうことなく、私はこれからどういう形を住民としてはとっていくべきなのか、また環境省もこうしているからそのままにしてくれというならしょうがないとしても、ただ心配なのはまたたまればまたふえるのではないかという町民感情をどうやって抑えていくかというのが一番の問題点だと思うのですが、その点もう少し詳しく教えていただければと思います。

それともう一点、2番目の質問なのですが、前回私は環境省も業者の方もちゃんとやっていると思います。ただ、町民の行き違いだと思うのですが、行き違いであってもそういうトラブルあるということはやっぱり環境省の責任だと思いますので、その点は十分注意していただきたいと思いますが、今の回答でもう少しいただければと思います。

○議長（塚野芳美君） 加藤さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（加藤 聖君） ご質問ありがとうございます。私の説明が不足しておりまして、まことに申しわけございません。

2011年の3.11のときに落葉樹については既に葉が落ちておりまして、地面にございました。針葉樹につきましても、杉などにつきましても基本的には原則5年ぐらいで全ての葉が生えかわるということになりますので、除染するときには下に落ちているというのが原則的なところでございますが、他の市町村で幾つかある事例としては葉っぱが集まっているところが線量が高いのではないかとというご心配いただく場合ございます。これは水みちになっている場合で、葉っぱが水と一緒に流れて集まってくるところ、こういうところにつきましては水みちになっているところは線量が集まりやすくなっているもので、線量が再び上がっているというケースまれにございます。そういうこともございますので、現地にどこが水がたまりやすいかという状況は一件一件現地で確認しないとちょっと机上ではわからないものですから、現地によく調査に入りましてそういう水みちになっていて線量が高くなっている、再び上がっているというようなところをきっちり確認して必要な対策をとっていききたいと、このように考えております。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） ご指摘の点でございますが、昨年度につきましては環境省のごみ回収の業務で所有者様との連絡の漏れですとかありまして、所有者様にご迷惑をかけたことが何件かございました。事業者様は一生懸命やっておりますので、そういった環境省からの指示の仕組みですとかそういったところを今改めて見直しているところでございますので、そのように徹底をしてしっかりやっていきたいと思ってございます。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

5番、早川恒久君。

○5番（早川恒久君） 建物解体のほうのことでお伺いします。

解体申請が1,300件ということで現時点で491件ということで、800件まだ手つかずの状況というの

は目に見えてわかるわけですが、町民から最近よく耳にするのがやはり遅いというのは当然のことなのですが、解体して新たにその土地に新築で家を建てたいという方が最近ちらほらいるような声を聞いております。そういった中で例えば優先順位とか解体は申請するけれども、帰らないからいつでもいいという方もいるでしょうし、また今言ったように新築で家をまた建てたいという、そういう方に関しては優先として先に解体をするようなことも必要かと思うのですが、そういうこともできないのかどうかをお伺いしたいと思います。

それから、全壊及び大規模半壊程度の建物がまだ町内目につくのですけれども、そういったところも特に道路に面したところは非常に危険だと思うのですけれども、そういうところもやはり優先的に解体をすることも必要ではないかと思っておりますけれども、その辺はどのように考えているのかお伺いします。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） ご指摘ありがとうございます。まず、1点目の点でございますが、建てかえですとかそういったご希望のある方につきましては環境省のほうにご一報いただきましたらば、いろいろと日程の調整をさせていただければと思っております。そういったところも工夫をさせていただきながら、住民の皆様が一日でも早く帰還できる状況をしっかり整えてまいりたいと思っております。

2点目につきましては、ご指摘のとおり町内にも家屋の解体が必要だと思われる建物散見されておまして、環境省といたしましても、まずは申請を出していただきたいと思っております。現状の対応でございますけれども、町役場と調整しておまして、そういった家屋をリストアップしまして、解体申請が実際に出ているかどうかを確認してございます。申請が確認できないところにつきましては、申請を待つのではなくて、解体申請をぜひお願いしますというようなことのアクションを起こす状況でございますので、そういったことを踏まえまして、そういった目につくような家屋の解体というのも速やかに実施してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 5番、早川恒久君。

○5番（早川恒久君） ありがとうございます。実際に建て直したいという方がそれをわからないということもありますので、その辺は例えば町の広報紙とか環境省で広報紙の中にチラシを入れるとか、そういった工夫もしないと順番待ちというふうにしかわからないと思いますので、その辺はもうちょっと積極的にPRしていただければと思います。

あと先ほどの危険な家屋、建物の町との調整、調査をしていっているということですが、これも本来であれば早目にやっていかなければならないものだと思いますのですけれども、ちょっと遅いのかなというふうには感じるのですけれども、やはり帰還していく上で特に大通り沿いにある建物が倒壊しそうなものとか、そういうところを町民が見ると、帰還の意欲というのもなくなってしまうとい

うこともありますので、ぜひ早急にその辺は進めていただければと思っております。

それから、ちょっと車両のことで聞きたいのですけれども、津波で流出された車両というのが多くあったのですが、最近大分少なくなったと思うのですけれども、富岡川の河川敷に数台ちょっと目立つところに放置したままになっているのですけれども、その辺も早急に所有者の同意というのにも必要だと思うのですけれども、その辺も早急に撤去することもできないのかどうかお伺いします。

○議長（塚野芳美君） 復興推進課長。

○復興推進課長（深谷高俊君） 今ほどの質問で町の広報というお話がございましたので、ちょっと答弁させていただきます。

解体後新築を希望されている方などについて町復興推進課等に相談があった件については、そういう事情については漏らすことなく環境省にはつないでおります。できるだけやはり年度内には解体ができるようになるだけ早くできるようにということで申し入れはしております。なお、広報にその文書までは入れていないものですから、今後広報にその旨載せていきたいと思えます。

それから、大通り沿い、これは役場の復興推進課では特に中央通り、それから岡内付近、このあたりは現地調査をして解体しそうな住宅についてはリストをつくりました。これを環境省さんに提出して罹災が出ているかどうか今確認しているところでございます。

それから、津波流出車両でございますが、富岡川の特に左岸側に6号国道沿いから見えるところで3台ございます。これについては所有者を先般調査して確認しましたので、恐らく環境省さんが近々撤去のほうできると思えます。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） 車両につきましては補足をさせていただきますので。今お話がありましたとおり、車両につきましてはそういった状況で速やかに撤去できるできないを環境省で速やかに判断して、後日お知らせさせていただければと思っております。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

4番、堀本典明君。

○4番（堀本典明君） 私はちょっと除染のほうの質問をさせていただきます。

今1ページなのか3ページなのか、除染後の平均値が出ておりますが、もちろん目標値を持って除染されたわけではないと思うので、この結果がいいか悪いかという判断はなかなかできない部分あると思えます。また、今フォローアップ除染が始まっている中ではあるのですが、当町といたしましても、今帰町に対していろいろと検討、除染の検証委員会等々も進んでおる状況の中で、どこを基準にという基準がないものですから、そこ判断非常に難しいところだと思うのですが、やはり一つの基準

となるのが今まで除染をされて避難指示解除された地域、やっぱりそこと比較してみなければいけない部分も出てくるのかなというふうに私は感じているのですが、今フォローアップ除染が始まって今まで除染されて避難指示解除された地域と同程度のレベルまで線量が下がるかどうか、下げることができるのかどうかというのを今現在どういうふうにお考えなのか、ちょっとお聞かせいただきたいのですが。

○議長（塚野芳美君） 加藤さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（加藤 聖君） ご質問ありがとうございます。例えば3ページのところをごらんいただきますと、線量が一番最頻値というか最も棒グラフの棒が高いところが0.3、0.4、0.5というあたりが1回目の除染、0.6、このあたりが棒グラフとしては高いということになっているかと思います。それで今まで避難指示を解除してきた田村市さん、川内村さん、楡葉町さん、こういうところはおおむね今まで除染してきたエリアはいわゆる避難指示解除準備区域ということになりまして、線量が比較的低いところでのお話でございましたので、解除の時期にお示した線量としては幾らか幅がございますが、0.3から0.8ぐらいのところ、宅地平均でいうとそのぐらいのところ避難指示解除の住民説明会、もしくは議会の説明会を迎えたというのが今までの実績ではございます。今般フォローアップ除染をまず行わせていただいて、線量が青い棒グラフでいうところのもっと高い側のほう、こちらのほうをできるだけ線量の低いほうに近づけていくということが必要というふうに考えておりまして、そこのところ除染するとかなり平均値のほうもまたお示しできる平均値下がってくるのではないかなというふうに想定しておりますが、今の段階でどのぐらいの線量になるかということとはなかなか難しいところもございますので、フォローアップ除染まず半年ぐらい実施させていただいて、その実施状況も踏まえて、またフォローアップ除染するとこのぐらい下がるという実績がございますというようなことを改めてましてご説明させていただきたいと、このように考えております。

○議長（塚野芳美君） 4番、堀本典明君。

○4番（堀本典明君） なかなかどこまで下がるかというのはやってみないとわからない部分あるし以前ご説明いただいたときもやれるだけのことはやって、下げられるだけのこと下げるといようなお話はいただいておりますが、やはり帰町の一つの判断材料というか、一番大きな判断材料になってくると思いますので、他町さん、今まで避難解除されたところより、もともと高かったのかもしれませんが、ある程度もう少し手法を変えるなりということが必要なのかなというふうに思うのですが例えば舗装を全て張りかえるとかコンクリートを全部取りかえるとか、そういったところまでやるようなお考えになっているのかどうか、お聞かせいただけますか。

○議長（塚野芳美君） 加藤さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（加藤 聖君） ご質問ありがとうございます。ご指摘のとおりよく緑色で表示されます避難指示解除準備区域、これに比べまして居住制限区域は除染前の線量

高うございますので、そういう意味でさらに線量を下げするために通常はやっておりませんのり面の剥ぎ取りとか植栽下の剥ぎ取り、客土とか、そういうものも組み合わせでさらに線量をできる限り下げていって、少しでも安全安心いただけるような環境をいち早くつくっていききたいと、このように考えておりますが、他方で居住制限区域をそのような形で異なる手法でフォローアップ除染するというのが、経験としては今年3月から現場でいろいろ実施して治験を積み重ねているところもございますので、それによって線量が下がるのではないかというふうには思っておりますが、どのくらい下がるかというところにつきましては、改めて実施状況がある程度まとまったところでご報告させていただきたいと思います。

○議長（塚野芳美君） 4番、堀本典明君。

○4番（堀本典明君） いろいろと今試しながらやっていただいて、その効果を見ながらどういう手法がいいかということを検討されているということなのですが、ぜひ0.23というのはなかなか厳しい壁があると思いますが、そこに極力近づけていただけるようにいろんなことを試していただいて、効果が上がるものをぜひどんどん取り入れてやっていただきたいというふうに思うのですが、最後にお願いいたします。

○議長（塚野芳美君） 加藤さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（加藤 聖君） ご指摘いただきましたとおり、できる限り線量を下げる方法を十分に検討しまして対策を講じていきたいと、このように考えております。ご指摘ありがとうございます。

○議長（塚野芳美君） 6番、遠藤一善君。

○6番（遠藤一善君） まず、フォローアップの8ページ、ここのフォローアップの一番下の米印ではなくて真ん中のところの米印のところに、ただしということで、長期的な目標が年間1ミリシーベルト以下を達成している場合、フォローアップ除染の対象外とするというふうに書いてあるのですが、この年間1ミリシーベルト以下を達成している場合というのが、どうも何をもって1ミリシーベルト以下、その部分なのか全体なのか。当然全体の話がされたのでは高い部分をとれないので、高い部分を1ミリシーベルト以上であれば全てフォローアップ除染をしていただきたいというふうに思うのですが、その辺はどういう見解なのかということ。

それから、今回特例宿泊とか一時帰宅をしている人たちが、今この時期になってきますと、一番何をしているかという草むしりをまずするのです。皆さん家の片づけをしているとお思いでしょうが、家の片づけは帰れる人は終わっているのです。そうすると、何をするかという草むしりをするのです。草むしりをする状態で年間1ミリシーベルトというのを考えているのかどうかというところをちょっとお願いします。

あともう一点、フォローアップのときに雨どいのところが垂れ流しの雨どいだけの様な話が出てくるのですが、雨どいは集水ますが下がコンクリートでできているわけではなくて、汚水ますとは違

うのである程度浸透になっているのです。そうすると、そういうところの集水ますも高い可能性があるのですが、その辺はきちっと把握しているのかどうかということをお願いします。

それから、仮設焼却炉の件で一番最後の今後の進め方で仮設焼却炉の計画なのですが、帰還困難区域のところで可能性として仮設焼却炉を延長しようという可能性と、新設をする可能性というのがあるかと思うのですが、それはどういうふうにお考えなのか、ちょっとお聞かせください。

○議長（塚野芳美君） 加藤さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（加藤 聖君） ご質問ありがとうございます。除染の関係、関連するところ3点いただきました。

年間1ミリシーベルト達成というところにつきましては、部分的に高くなっているようなところ、当然1回目除染しても線量高くなっているところもございますので、順次線量を1ミリ以下になるように下げていきたいというふうに考えておりますが、他方で先ほども3ページの棒グラフでお示したように、線量の高い地点まだ残っているところがございますので、優先順位としてはまず町全体の中で線量が高いところ、ここをまず下げて、線量の低いところに近づけるというところからまず優先的にやらせていただきたいと、このように考えております。

また、草むしりをするとか、こういう形で例えば農作業をされるとか、いろいろな状況で町民の方が町にお入りになったときのどのような行動をされるかというところが出てくるかと思しますので、一時的な特別宿泊の際に富岡町さんのほうで個人線量計の貸し出しなども行っていらっしゃるというふうに承っておりますので、そういうものをつけていただいて今後治験をためていって、できる限り空間線量、滞在時間の長いところ、そういうところも把握させていただいて、優先順位をつけて線量が下げられるように検討していきたいと思っております。ご指摘ありがとうございます。

あと雨どい、ご指摘のとおり新しく建てた築浅の物件の場合に浸透ます使われている場合が結構ありになるということは私ども把握しておりまして、浸透ますの場合にはますの下の方に水がたまりやすいというか、水みちになっているので線量が高い場合があるということも把握しております。そのようなところも現地で詳しい調査をいたしまして、浸透ますの下の方、汚染されている部分などを取り除いて線量を下げること、フォローアップ除染の中でやっていきたいと考えております。

ご指導ありがとうございます。

○議長（塚野芳美君） 小島さん。

○福島環境再生事務所減容化施設整備課長（小島啓之君） 県内の減容化施設、仮設焼却炉のほうの建設を担当してございます減容化施設課長の小島でございます。

遠藤議員からご質問をいただきました富岡町の仮設焼却炉、帰還困難区域を想定した中で延長するのか新設するのかというお尋ねかと思いますが、富岡町のほうへ設置させていただいております仮設焼却炉につきましては、これまでも議会や地権者の皆様に帰還困難区域を含めた富岡町内の廃棄物を処理させていただきたいというご説明をさせていただいております。一方で帰還困難区域で発生す

る廃棄物につきましては、処理量が未確定というところでまた方針も未定ということで運営建設には組まれてございません。また、今富岡町内の帰還困難区域で片づけごみを私ども回収させていただいてございますけれども、こちらについても現在の焼却炉、富岡町内のほうにあります仮設焼却炉で安全に処理させていただいてございます。いずれにいたしましても、帰還困難区域全体の処理計画が未定という状況でございますので、改めてしかるべきタイミングでご報告、ご相談させていただきたいというふうに考えてございます。

○議長（塚野芳美君） 6番、遠藤一善君。

○6番（遠藤一善君） まず、フォローアップの草むしり、ちょっときちっと理解してほしいのですが、今来年の4月帰還に向けて一生懸命みんないろんなことをしているわけですが、当然住民の方々も帰還に向けていろいろやるべきことがあるわけです。そういう中で何を今すると思っているのですかという話の疑問で、草むしりを大きなウエートでするのですよと言ったときに、1ミリになるべくならないようにしてもらうため、帰る人にそういうふうになってもらわないためにどういうフォローアップをするのかと言ったときに、やはり草むしりを一日中しているような状況になるのであれば、きちっと地盤面の線量を、1メートル空間線量の話ではなくて、立っていれば1メートルでいいですよ。でも草むしりというのは座ってやりますから、そういう状況でそれを後からどうのこうのではなくて、まず現況としてはっきりわかる部分の中できちっとその辺まで下げる努力をフォローアップとしてしてくれるのですかという、する気はあるのですかというような質問ですので、それに関してはもう一度申しわけないがお答えください。

それから、雨どい、集水ますの話はわかりました。雨水は道路の側溝とかいろんなそういう公共の側溝に行くわけですが、公共の側溝を除染しているような雰囲気は全くないのですけれども、そこに関してはどういう方針なのか。

それから、焼却炉に関しましては、今帰還困難区域の中のものも仮設の焼却で処分してくれるということですので、してくれるということでよろしいのですよね。ということは、まだ避難指示解除になっていませんが、今後避難指示、帰還困難区域の中の解体とか等々始まっても、それがいつになろうが仮設焼却炉はきちっとそのまま使ってくれるという受け方でよろしいのかということを再度お願いします。

○議長（塚野芳美君） 加藤さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（加藤 聖君） 大変申しわけございません。私の説明が不足しておりまして申しわけございません。

ご指摘のとおり、宅地につきましてはまずは皆様帰還に向けて草むしりなどいろいろな作業をされるというふうに認識しておりますので、宅地につきましては優先的にまずフォローアップ除染、これを行わせていただきたいと考えております。1メートル空間線量高くなっている場合、直下の1センチ地面が高くなっている場合、もしくは周囲が高くなっている場合、いろいろございますので、1メート

ル線量が高くなっている原因、現地で確認しまして、直下が高くなっている場合は直下をまず速やかに除去する。周囲が高くなっているせいで1メートル線量が高くなっている場合は周囲の対策を施すというような形の中で、できる限り線量を下げるということで対応させていただきたいと考えております。

また、道路側溝の除染につきましては、道路除染に合わせて最初に側溝の堆積物の除去というものを行っております。なので、基本的には側溝除染終わっておるというふうに認識しておりますが、一部農地除染等の関係で、農地除染終わってから道路の除染をする部分などもございますので、そういうところが残っている可能性もございますので、改めましてご指摘を踏まえて確認しまして、側溝除染きちんとやるようにしていきたいと、このように考えております。

○議長（塚野芳美君） 小島さん。

○福島環境再生事務所減容化施設整備課長（小島啓之君） 帰還困難区域の処理の件でございますけれども、夏ごろに方針が示されると今報道等で報じられているとおりでございます。実際方針が出ますと、議員ご指摘のとおり解体ですとか除染ですとか、可燃性の廃棄物の大分出てまいります。これにつきましては、現在の焼却炉のほうで処理させていただきたいというふうに考えてございますので引き続きご相談させていただきたいというふうに考えてございます。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 資料なのですが、どこを見ても地上1メートルなのです。電離放射線防護規則、こういったものは地上1センチなのです。どうしてこれ地上1センチをつくってくれないのかなと思って、これ不思議なのですけれども。

あと、3.8が20ミリという言葉も結構多くここに記載されているのです。3.8が20ミリというのはいつまでその計算方式を使うのか、その辺もちょっと疑問あるのです。やはりこれフォローアップといいますけれども、どこまで、これを読むと数値目標を決めるのは難しいと書かれているのです。数値目標を決めてくれなかったら町民の方が帰町の判断にならないではないですか。放射線防護規則でいう放射線管理区域に住民の方に帰れというのと全く等しいのです。平均値見てもやはり1.9あったものが0.87とかそういったものでは年間8ミリ、9ミリのところに子供まで帰れというのと同じなのです。そういう根本的なところが全然間違っているのかなと私は思うのです。環境省は20を下回ったという言葉使いますが、原発事故当初はセシウム134も入っているので、福島、郡山は0.5、0.6でも避難しないでいました。でもこうやって除染した後、0.8、0.9ぐらい残っているのであれば、セシウム137がほぼ大量に含まれているので、半減期が30年ものものがほぼそういうものが含まれているので、自然減線難しいので、フォローアップやるのだったら、1ミリまでやると言ってくださいよ。1ミリまでやるのが困難であれば、とりあえず帰っていただけそうな3ミリとか4ミリ、1時間当たり0.4とか0.5、この辺までやると言えないのですか、それが1点。

もう一点、解体のほうに質問させてください。先ほど5番議員が質問した解体の優先順位、もう帰らないから解体してくださいという人を後回しにしないで、新築とかそういう人を先にしてくださいと、その中に戻って事務所を再開したいとか、戻って店舗を再開したいとか、あとは自分の会社の従業員の下宿、寄宿舍、こういったものを建てたいとか、そういう町のにぎわいを取り戻すための事業所であれば、やはり優先順位上位のほうに上げてもらえればいいのかと、そういうふうに思いますので。

あともう一つ、解体のほうで質問は。先ほど片づけごみも富岡の焼却炉で処分していると、その中にリフォームからこういったものも原発事故があって発生した放射性廃棄物なのですから、業者の間でとか建て主さんの問題とかではなくて、やはり国が責任を持ってリフォームがらとかお墓とか、とりあえず今すぐ決断出せなければここに置いておきなさいと、後で何とかするから、国が責任持ってこれ処分してくださいよ。これについてお答えください。

○議長（塚野芳美君） 加藤さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（加藤 聖君） ご質問ありがとうございます。まず、1センチの話でございますが、基本的に、釈迦に説法でございますが、原子力発電所など限られた放射線管理区域の場合、放射性物質によって汚染されたところをきれいにするという観点から、限られた放射線管理区域では1センチを基準にしていろいろなものを判定しているということでございますが、今回の第一原発事故の場合は放射線管理区域ではない一般の住宅地や農地にいろいろな線量が降り注いだということでございまして、この場合の測定方法としましては実効被曝線量に近いものを測定するという観点から、1メートルの空間線量でお示しするのが適当であると、このように考えております。また、3.8マイクロシーベルトパーアワーイコール20ミリという計算は、快適に屋外に8時間、屋内に16時間いた場合、屋内の場合にはコンマ4掛けに線量が低減されるということをもって計算した一定の過程を経た計算式によりますと、3.8マイクロシーベルトは年間20ミリシーベルトに相当するというところでございます。

放射線管理区域3カ月で1.3ミリシーベルトということでございますので、年間5.2ということだと考えております。今回お示しいたしました宅地の平均0.71マイクロシーベルトパーアワー、これを先ほど申し上げた屋外8時間、屋内16時間の簡易な計算式で計算いたしますと、年間約3.5ミリシーベルトという状況が1回目の除染が終わった状況でございます。これを少しでも線量を下げるように今後フォローアップ除染、念入りに行っていきたいと、このように考えております。また、結果につきましては、フォローアップ除染が一定程度進みましたところで、改めて線量がどのぐらいになったかということをご報告させていただきたいと、このように考えております。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） ご指摘ありがとうございます。ご指摘頂戴いたしました1点目の解体の部分でございます。議員おっしゃると

おり、町のにぎわいのためにはそういった商業施設ですとかの建てかえですとかそういったことも非常に重要なことだと考えてございます。ぜひそういったお話、お声ありましたらば、役場、環境省、一体となって対応させていただきますので、ご相談を引き続き今後もさせていただければと思っております。

2点目のリフォームですとかそういったところから発生する廃棄物を国として責任を持ってしっかり処理してほしいというご指摘でございました。環境省といたしましては、現在町内から発生するリフォームの廃棄物ですとかで、線量の関係で引き取り手がいないというようなご懸念というのを十分認識してございまして、環境省のできる範囲で一生懸命やらせていただきたいと考えてございまして、具体的には何度も申し上げていることで恐縮でございますが、産業廃棄物協会ですとか県と今しっかりタッグを組んで今の産業廃棄物の処理ルートで適切に処理がなされるように一生懸命調整させていただいておりますので、そういった方向で今後も処理が円滑に回るように取り組んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 今の線量のほうをまず。先ほど電離放射線防護規則は放射線管理区域の法律だと。国民というか私ら住民が戻るところは宅地とか農地で放射線管理区域ではないというような言葉が出てきたのですけれども、ちょっとここでおかしいのは放射線管理区域より厳しいところに戻れと言っておいて、数字が厳しいところで、法律が違うというような言い方はちょっと納得いかないです。小さい子供までそういったところにこれから国は安全宣言するのでしょうか、警戒区域を解除して戻ってもいいよという宣言するわけですから。そういった中で電離放射線防護規則は原子力発電所構内で働く人だから低い数字でいいのだよと。現に戻る子供たちは高い線量でもいいのだよと言われていたような錯覚を起こします、今の返事では。それはちょっと私は納得いかないです。

それと以前富岡町では地上1メートルと1センチで消防団が幾つかのポイントではかってくれたときあるのです。そういったのを比較するとはるかに1センチのほうが高いのです。1メートルのほうが高いのではなくて1センチが高いから、今のグラフよりももっと高い数値が1センチの場合には出てくるのです。だから私は1センチをあらわしてくださいと、そのように申し上げたのですが、ちょっと理解してもらえないですね。

あと計算方式、屋外とか屋内とか18時間、16時間、今富岡町に行って家の中ではかっても表ではかってもほとんど数字は変わらないそうです。そういった中で遮へい効果というのはほとんどないような状態に等しいのにいつまでその計算方式を使うのかという質問なのです。実態に合っていない答えだと私は思います。

それと先ほどの0.71は3.5ミリシーベルトに相当すると、そういう答えなのですけれども、これは宅地での計算です。帰った人間は家の中だけにいるのではないよ。家の周りだけにいるのではないよ。

田んぼに行ったり畑に行ったりいろんなところに行くのですから。やはり全体の平均値で見た場合にこういう屋外とか屋内、そういった計算方式ではなくて、きっちり小さい子供までのことを考えて答弁してくださいよ。

それと解体のほうです。今解体の1番目の町のにぎわいを戻すことに関しては前向きに考える、それはありがとうございます。それと産廃業者と相談しながらというリフォームのがら、結局放射性廃棄物、原発事故がなければ高いお金を出して処理しなくていいのです。高いお金を出して処理しなければならないから環境省で何とかしてもらえませんかという質問なのです。まして冷蔵庫とか茶だんすとかベッドとか家の中の片づけごみは責任持ってくれるのだから、どうしてリフォームのがらそういうものは産廃業者で持って行ってくださいなのですか。その辺理解できないです。家の中から出るごみには違いないのだから、何でそういうふうに分けするの、その辺の答えが明確でないで、もう一度きっちりわかりやすく説明してください。

○議長（塚野芳美君） 加藤さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（加藤 聖君） 申しわけございません。私の説明が不足しておりまして、恐縮でございます。

年間5ミリシーベルト、この関係につきましては時間当たり2.5マイクロシーベルト、これに年間の平均的な労働時間でございます2,000時間というものを掛け合わせて年間5ミリということで、放射線管理区域の年間5ミリというのが決まっているというふうに認識しております。他方で議員ご指摘のとおり365日24時間お住まいになる場合は8,760時間でございますので、この8,760時間で一定の仮定をおいて5ミリで計算した場合は1マイクロシーベルトでございますので、放射線管理区域の2.5マイクロシーベルトよりも5ミリ相当の水準としては1マイクロシーベルトということで低い水準にはなっております。そのような5ミリシーベルトというところにつきましては、今のところの平均値としては全体で0.87というところでございますが、他方で線量の高いところ、低いところまだございます状況でございますので、線量の高いところを中心にフォローアップ除染順次実施してまいりたいと、このように考えております。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） ご指摘の点ありがとうございます。説明が悪くて申しわけございません。

ご指摘の部分でございますが、やはり環境省が個人の方のリフォームから出る廃棄物を処理するところには、法律ですとかさまざまな壁、課題がございます。そういった中で円滑にリフォームですとかから排出される廃棄物を処理しまして、住民の皆様の帰還を促進するためには既存の処理ルートを最大限活用した方策が一番妥当であるというふうに考えてございます。

ご指摘の点の高い費用という点でございますが、私一番最初に県や協会さんと協力をしていると申し上げましたが、もう一つ東京電力さんとも確認をさせていただいておりまして、そういったリフォ

ームに係る廃棄物の処理を含めた費用処理が賠償がなされるという話も伺ってございまして、そういったところ円滑になるように環境省も東京電力さんに任せるのではなく、一緒になって処理が回るように努力をさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 7 番、安藤正純君。

○7 番（安藤正純君） 線量のほうなのですけれども、かなり難しい話でちょっと私も頭の中今ついていくのに大変で。ただ、環境省は1から20の中の20で大丈夫だと言いますし、文科省は1だと言いますし、やはり立つ位置によってその考え方が違うと、帰ってくださいと環境省は20だと言っても、帰される町民は1だと言います。どっちの根拠が正しいか、これは答えの出ない話だから今ここでやり合ってもしょうがないけれども、ただ国は国民に寄り添う、被災者に寄り添うというふうに言っているのだから、総理大臣が。国民が1から20の中で1を選択すれば1に限りなく近づけてくださいよ、3とか4とかでとりあえずここまでしか下げられません。あとは1を目指しますからと、それだったら納得いきます。何か変な計算方式でねじ伏せられているような感じで、すごく納得いかないような話でした。その辺はもう少し被災者に寄り添った考え持ってください。

あと解体のほうです。今解体の説明の中で既存のルートで考えたいと。片づけごみは焼却炉で処分するけれども、リフォームは既存のルートと話あったので、東京電力、県、そういったところが業者に係る費用を持つのであれば私ここで話やめます。まだ持ちますというふうなその話し合いの段階だということなもので、きっちり個人に対して負担のかからないやり方、これを答え出してください。この2点。

○議長（塚野芳美君） 加藤さん、結局管理区域の定義になっている1.3ミリでしたか、2カ月平均。その辺の部分的なあれがちょっと伝わっていないようなので、その辺も含めて説明してください。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（加藤 聖君） 済みません、私の説明が拙くてまことに申しわけございません。

まず、議員ご指摘いただきました年間20ミリ、これにつきましては内閣府が20ミリを確実に下回る場合に避難指示解除を判断するというようになっておりまして、内閣府のほうで設定している基準でございます。

もう一つ、議員ご指摘いただきました3カ月1.3、年間5ミリというものにつきましては、これは原発などで働く人たちが1時間当たり2.5マイクロシーベルトのところにつきまして、年間2,000時間働いた場合の目安として年間5ミリというものが法令上規定されているものでございます。1時間当たり2.5ですが、労働時間2,000時間となっておりますので、年間5ミリの値としては私どもが計算している屋外8時間、屋内16時間という簡易な計算よりも、時間当たりの線量としては2.5マイクロということで、線量としては高くなっております。私どもが計算しております屋外に8時間、屋内に16時間という場合で計算した場合には年間5ミリに相当する数字、簡易的に計算したものは1マイクロシ

ーベルトパーアワーということになっておりますので、線量としては管理区域と違って年間365日、24時間、8,760時間ありますので、2,000時間いるという仮定のもとに法令上定められている放射線管理区域の5ミリというものよりも厳しい形で年間1マイクロが5ミリに相当するというような計算式になっております。その上で私どもとして内閣府が20ミリということを決めておるといのは承知しておりますが、環境省に与えられた役割、仕事というものは除染をいたしまして、復興の先駆けとしてできる限り帰還に向けての条件を整えるというのが環境省の仕事だというふうに理解しております。このため議員ご指摘いただきましたとおり、そのための環境を整えるというのが私どもの役割と認識しておりますので、フォローアップ除染でできる限り線量を下げることによって帰還できる環境、一日も早くお帰りいただける環境を迅速に整えていくというのが環境省の使命であり、被災者の皆様に寄り添うことになるというふうに考えておりますので、まずは1回目の除染終わった後のフォローアップ除染、本年度迅速に行わせていただきたいと、このように考えております。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） 2点目の安藤議員のご指摘の点でございます。東京電力さんからは今までの過去のリフォーム費用も含めた廃棄物処理費用も含めたものは全て請求いただいたものはお支払いができていているという確認がとれてございます。しかしながら、だからといいまして、環境省がそういったリフォームのものをもちろに任せしますと、そういった考えでは全くそれは問題があると考えてございます。つきましては、住民の皆様にとりましてはリフォームから出る廃棄物が誰が処理しようがそれは円滑に処理をしていただくことが第一でございまして、そういったところをしっかりと環境省も一生懸命ほかの関係機関だからということではなくて、円滑に費用の支払いですとかもなされるように一生懸命努力してまいりたいと思っておりますので、ぜひ何かそういったところで現場で不都合な点ですとかございましたらば、ご指導、ご指摘頂戴できればと思っております。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 中川さん、先ほどの東電との話の中でという賠償の話ですけれども、東電が言っている1カ月10万の慰謝料に若干上乘せしている部分で、それで諸費用を見ているのだという部分を言っているのか、それとは別に廃棄物の処理もしくはリフォーム、その部分を話したのか、それどちらなのか、そこはつきりちょっと説明してください。

中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） ただいまの議長のご指摘の点でございますが、東京電力さんの住居確保損害の賠償において支払われるというふうに聞いてございます。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

13番、渡辺三男君。

○13番（渡辺三男君） まず今の答弁ですが、それは中川さんおかしいでしょう、住宅確保損害の中に含む処理費用では。住宅確保損害で処理費用食ってしまって満足な家ができないなんていう状況も生まれる可能性出てきます。といいますのは、リフォームとかそういう考えている人たちが膨大な処理費かかってきているのです、見積もりの中とか、そういう部分で。それは本来は環境省が片づける部分であって、あなたたちが放射能汚染物質に関しては町外持ち出し禁止にしたでしょう、最初。それをあなたたちが勝手に法律を変えて、3,000ベクレル以下は一般の処理施設に入れられるよなんて勝手に変えてきているわけです。ましてや国民の貴重な税金で富岡町にあれだけの焼却施設つくって、あそこで処理できるものを何でもその玄関先で入り分けしてはこれはだめだ、あれはだめだとやるのですか。そんなのあなたたちの勝手な理屈でしょう。我々の財産、汚染されたものに関してはあなたたちの勝手な理屈でそれは自分たちでお金出さない、これは環境省が壊すからただですよ、そんな理屈通るのですか。住宅確保損害のほうから処理費払うのであれで、自分でお金出しているのと同じなのです。その辺をきちっと考えてください。

あと先ほどからいろいろ20ミリの話でいろいろやりとりしていますが、20ミリを下回ったら避難区域解除します、そんなのも勝手な法律なのです。あなたたちはやることをきちっとやってくれば地域住民も心あるのです。国はしっかりやってくれているのだ、環境省は我々の要望をしっかり聞いてくれているのだと、では帰ってからもある程度不都合があれば環境省さんなり国がしっかり対応してくれるから、ある程度は状況によっては大丈夫だろうという気持ちを持てば帰る人もふえると思うのです。あなたたちは縦割りではばっさばっさ切っているだけでしょう。今の答弁なんか聞いていると、まさに情けない答弁ばかりですよ。我々そんな放射線の数字なんかわからないです。あなたたちはプロです。一番わかりやすいのは、震災前の数字に戻すことなのです。そこまであなたたちがどこまで努力するかなのです。それなしにして帰町なんかあり得ないです、あなたたちの答弁の仕方聞いていると。そうでしょう、フォローアップ除染だって幾らより高いところをフォローアップ除染して幾らまで下げるのですか。あなたたちの勝手な理屈でここは高い、ここは低い、そうやって決めているだけでしょう。そんなことはあなたたちが決めるのではなくて我々が決めるのです。そうではないのですか。

人らの貴重な財産、心の中まで真っ黒に汚して、あなたたちの勝手な理屈ではばっさばっさ切るのですか。自分たちがそうやられたと思ったらどうなるのですか。冗談言うのもいいかげんにしてくださいよ、答弁できるものならしてみてください。

○議長（塚野芳美君） 13番さん、若干言葉遣いには気をつけてください。

産業振興課長。

○参事兼産業振興課長（菅野利行君） 居住確保損害についてでございます。東電のほうで今示している基準から言いますと、リフォームというか解体費用については上限額とは別に出すということで、定義的にはどこの辺までというのはあるのだらうと思うので、ここまでというのは私ちょっとそこま

では存じていませんが、制度的には居住確保損害の最高限度額とは富岡の解体費用については出すというふうにはなっております。

以上でございます。

〔「解体費用ではなくて処理費用ですから」と言う人あり〕

○議長（塚野芳美君） 産業振興課長。

○参事兼産業振興課長（菅野利行君） 済みません。ですから、限度額とは別に出す部分があるので、どの辺まで処理と解体というのはあるのですが、その辺がちょっと細かくは私わかりません、はっきり言って。ただ、限度額を超えて解体とかその部分についても当たる部分があるというふうになっておりますということでございます。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） 私の説明が不足して申しわけございませんでした。

今ご説明がありましたとおり、別に解体費用ですとかリフォーム費用が廃棄物の処理費用に含んで支払われるというふうに確認してございます。

○議長（塚野芳美君） 加藤さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（加藤 聖君） 申しわけございません、私の説明が十分でなかったということだと思っておりますが、まず11ページをごらんいただければと思いますが、渡辺議員ご指摘のとおり、そういう意味で一遍にきれいにすることが難しい場合もあろうかと、私どもも考えておりますので、27年度の本格的な面的除染、これに続きまして28年度フォローアップ除染を行いますし、29年度も順次行っていくということでございます。そういう意味で不都合があればそういう箇所について確認、お話をお伺いして実施していく体制、今までも例えば先行して除染が平成25年度に終わりました櫛葉町さんにおきまして、26年度、27年度と順次フォローアップ除染という形で対応させてきていただいておりますので、そのような形で対応させていただきたいと考えております。

その上でプロの方に答弁するのは恐縮でございますが、震災前の形にしていくということで放射線管理区域のような除染で一定の線量を決めて限られたエリア、汚染物を持ち出さないもしくは汚染された箇所をきれいにするという形の今までの従来の震災前で用語として使われていました除染のような形で進めていくというのは、今回の敷地外に放射性物質がまき散らされた事象におきましては、なかなかそのような形、従来の除染と言われる方法をとるのは難しいということもございますので、3ページにございますようなヒストグラムの中で線量が高い箇所、こういうところが実効被曝線量として被曝する可能性がより低いところよりも高いということになりますので、まずは総体的に町の中で線量が高くなっているところを低くすることでフォローアップ除染を行わせていただいて、町全体の平均線量を下げていくという方法が、一番今回の除染の方法としては妥当ではないかと、このように考えておきまして、線量高いところできるだけ低くいたしまして、またフォローアップ除染の

結果、改めまして暫定的にでも取りまとまった時点でご報告させていただきたいと、このように考えております。

○議長（塚野芳美君） 13番、渡辺三男君。

○13番（渡辺三男君） だからあなたたちが言っているのはフォローアップ除染だろうが何だろうが構わないです。除染していただいてちょっとでも下げていただければいいのです。ただ、一定の数字まで達するまではフォローアップ除染1回やったら終わり。また来年度2回目やったら終わりではなくて、5年も10年も20年も多分続けてやる必要が私はあるのだと思うのです、最終的に1ミリを目指すのであれば。その気があるかどうかなのです。あなたたちはいつ聞いても数字をうたわないということとは、まずは20ミリ以下に下がれば一安心だと、これで帰町宣言を促されると。あとはフォローアップ除染という言い方をかえて、全体の中で幾らが高いのだから、幾らが低いのだからわからないけれども、全体の中で高いところだけをかじりがけ的にちょいちょい、ちょいちょいやっていけばいいのだろうぐらいの考えなのです。その理屈が理解できないのです。数字がはっきりしていて、例えば3ミリだと。3ミリより高いところは毎回除染していきますよと、それ以下に下げるまで。我々望んでいるのは年間1ミリ以下なのですから。そういう理屈をあなたたちは理解できるだけきちっと我々に説明しなくてはならないでしょう。それを法律を盾にとってわからない数字並べたって、そんなの誰も聞かないのです。

あとは町内の廃棄物の処理の問題、処理業者をきちっと指導して引き受けさせますとか環境副大臣も何回も言っています。そういう引き取らない業者がいたら直接言ってよこしてください。そんなので解決する問題ではないのです。一般で営利目的でやっている業者さんは1ベクレルしか汚染されてなくてもそういうものは私は取りませんと言えば取る必要ないのですから。だから、本来はやっぱり12市町村、せめて20キロ圏内の汚染物質に関しては全て環境省さんがきちっと処理すれば何の問題もないのです。あなた方がわざわざわかりづらくして、一部は東京電力さんが支払うようになっています。どこまで払うのだ。5年たって今帰町を目指してリフォームだどうだこうだと富岡町も始まっている状況の中で、その範囲も決まっていらないような状況で誰が責任持つのですか。責任持ってくれる人がいるのであればそれで結構です。だから私は強く町にも言っているのは、環境省さん、国のほうがもう理解しないのであれば、町のほうでとりあえず引き受けて、町と環境省さんがやればいいのかと、そういう話も何回もしているのです。誰も責任持ってくれないのでしょう、この問題。電力さんが持つのであればどこまで持つのか、100万まで持つのか1,000万まで持つのか、金額に限りなく出た以上は全部電力さんが持つのか、その辺をはっきりしてください。

○議長（塚野芳美君） 加藤さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（加藤 聖君） ご質問ありがとうございます。私の説明、不徳のいたすところでございますが、放射線管理の原則はアララの原則ということで、アズローアズ、リーズナブリアチーバブルということで、できる限り合理的な方法で線量を下げて、被曝リスクを

下げるということになっておりますので、20ミリでいいというふうに私どもも思っておりませんで、できる限り線量を下げるという形でフォローアップ除染やらせていただきたいと考えております。また、その結果につきまして改めましてご報告させていただきたいと、このように考えております。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） ご指摘のリフォームの廃棄物の件でございますが、責任誰が持っているのかですとか費用の面とかそういったご指摘頂戴いたしました。そういったところにつきまして住民の皆様のお困りにならないよう、東京電力さんなどとの関係の機関とは一件一件具体的な事例が出てきたときにしっかり対応していこうという話をしてございますので、そういったところを着実に一件一件前例を積み重ねることで、夏以降円滑に処理が回っていくような仕組みづくりというものを進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 13番、渡辺三男君。

○13番（渡辺三男君） 具体的な事例ではなくて、具体的な事例もどうもこうもないのです。リフォームだとすれば解体したものを誰が引き取るかの話なのですから、それをどこがきちっと責任を持って処理するかさえきちっと決めていただければ何の問題もないのです。具体的な事例って何なのか、それ。決まっているのですよ、私の言っている事例は。その辺だけなのです。あとは除染に関してはできるだけ下げる努力をする、当然努力はしてもらわなくてはならないです。ただ、そのできるだけが一番くせ者で、やっています、やっています、努力していますで終わってしまうのです。私それ心配しているのです。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） リフォームの廃棄物の点でございますが、今現在具体事案を1件調整中のものございまして、ぜひ渡辺議員からのご懸念の点につきましても後ほど教えていただきましたらば、調整させていただきたいと思っておりますので、後ほどご指導よろしくお願いいたします。

○議長（塚野芳美君） 加藤さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（加藤 聖君） ご指摘ありがとうございます。除染でできる限り下げるというのが口だけではないかということご指摘いただきましたので、町の執行部または議会に改めて環境省フォローアップ除染を行いました状況をごらんいただくというのが一番ご説明としていい方法かと思っておりますので、先ほど申し上げましたとおりフォローアップ除染実施いたしまして、一定程度結果が暫定的にでもまとまりましたら、また改めまして町の執行部もしくは町民の代表でございます富岡町議会の皆様にご説明して、フォローアップ除染しっかり環境省としてやっているという状況をご報告させていただきたいと思っております。

よろしくお願いいたします。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

12番、高橋実君。

○12番（高橋 実君） 私も13番議員の質問と重複するのだけれども、確認のため。フォローアップ、8ページも年間1ミリシーベルト以下を達成云々と、結局0.23以上のところを重点的に第1回目のフォローアップをやって、終わり次第事後測定して0.23よりまだ高かったらば年度越しにやるのか新年度でやるのかと言ったら、29年度と11ページ出ているのでしょうか。だから年間1ミリで0.23を達成目標に高い部分を段階的に持っていくということでもいいでしょう、それは。

あとは解体の民間から出た廃棄物関係、私も終わって大変苦慮したのだけれども、言われたところに言ってやってもその施設の会社のほうで地域住民との協議の中に廃棄物汚染物質というのは入っていないのだ、文言が。だから、黒いフレコンとかそういうもので持っていくと、地域住民から指摘を受けるのだって。だから受け入れられませんと言われたいわきの業者もあります、私。ちなみに黒いフレコン処分してもらうのに4万取られました、私、運搬費別ですよ。

それとさっき町の産業振興課長も答弁してもらったのだけれども、東電のほうで再取得の分でどうのこうのというやつ、よく国のほうも確認して間違いのない、答弁できる答え持ってきて。私も住宅再取得でいろいろやっているのだけれども、そんな話今初めてここで聞いてたまげていたのです。だからちゃんと確認して自分だけわかるのではなくて、町の担当課のほうと話しして、町議会のほうと富岡町住民に間違いのない提起をしてください。どうですか、中川さんと加藤課長は。

○議長（塚野芳美君） 加藤さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（加藤 聖君） ありがとうございます。議員ご指摘のとおり6ページにございますとおり、長期的な目標として追加被曝線量年間1ミリ以下となることを目指すという目標ございますので、これに向けて段階的にフォローアップ除染した状況の確認、事後モニタリング、こういうものを組み合わせていって、議員ご指摘のとおり段階的に線量を下げていくということを考えております。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） ご指摘ありがとうございます。1点目のリフォーム廃棄物ですとか、いわきの処分業者に引き取りを拒否されたりですとか、我々環境省といたしましてもそういった話を頂戴してございます。そういった中で、処分場の周りの地域住民の方と調整ができている処分業者ですとか、そういった照会というものも産廃協会を通じて頂戴しているところでございますので、そういった話がしっかり伝達共有できるようにしっかり調整してまいりたいと思ってございます。

2点目の東京電力さんの件につきましても同様で、環境省といたしましてしっかり確認いたしまして、また情報を整理した上でお話しさせていただければと思ってございます。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） そのほかございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（塚野芳美君） なければ、以上で質疑を終了いたします。

以上をもちまして付議事件 3、平成28年度 除染・家屋解体についてを終わります。

調整の都合がありますので、3時30分まで休議いたします。

休 議 （午後 3時21分）

〔9番（山本育男君）退席〕

再 開 （午後 3時27分）

○議長（塚野芳美君） 若干早いですけれども、全員そろっていますので、再開いたします。

その他に入りますが、まず生活支援課長から発言を求められていますので、発言を認めます。

生活支援課長。

○参事兼生活支援課長（林 志信君） それでは、生活支援課から1件ご報告いたします。

お手元に町内立ち入り時間の見直しについての資料を配付してございますので、ごらんいただきたいと思います。これと同じものを広報とみおか5月号のお知らせ版に同封いたしましたが、これは町内への一時立ち入りの時間について町民の皆様に変更をご案内する内容となっております。現在町民の皆さんの町内への一時立ち入りにつきましては、避難指示解除準備区域及び居住制限区域につきましては午前9時から午後3時を目安とし、帰還困難区域につきましては午前9時から午後3時までと運用してございます。これにつきましては、案内文のほうにも記載したような事情を鑑みまして、6月1日から各区域とも1時間延長し、上段の枠内でございますが、避難指示解除準備区域及び居住制限区域につきましては、午前9時から午後4時を目安とし、下段の枠ですが、帰還困難区域につきましては、午前9時から午後4時までとするものでございます。なお、帰還困難区域内の滞在時間につきましては、従来どおり5時間以内といたしてございます。

また、米印で夜の森ゲートの運用時間は当面の間、午後3時までとなりますと記載してございますが、これにつきましては本案内を送付した後にゲートを管理する内閣府との協議により、開始日である6月1日から午後4時までゲートを運用できることになりました。この変更につきましては、改めてホームページ等を通じて町民の皆様にお知らせするとともに、帰還困難区域に立ち入る際に現地で案内文書を配付して対応いたします。町民の皆さんの一時立ち入りに関しましては、今後も安全を第一に進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

町内立ち入り時間の見直しについてのご報告は以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 報告ですけれども、あえて質疑がございましたら、受けたいと思います。ありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（塚野芳美君） なしということで。

産業振興課長。

○参事兼産業振興課長（菅野利行君） その他ということで資料等は用意していないのですが、なおかつ皆様ご存じだとは思いますが、東邦銀行のほうで本日から火曜日と木曜日、10時半から13時まで週2回でございますが、東邦みんなの移動店舗というかＡＴＭとか移動店舗が開始されました。ということで1つの情報ということでお知らせしたいと思います。場所はｔｏｍーとむの6号線側のほうで……。

〔「何事か言う人あり」〕

○参事兼産業振興課長（菅野利行君） 済みません。火曜日、木曜日、10時半から13時半の3時間でございます。場所はショッピングセンターｔｏｍーとむの敷地の中で6号線に近いところで見える場所でやるということでございますので、情報としてお知らせしたいと思います。

以上です。

○議長（塚野芳美君） ただいまの件につきましては、質疑はございませんね。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（塚野芳美君） 執行部はそのほかございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（塚野芳美君） それでは、各議員のほうからその他で何かございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（塚野芳美君） なければ、以上をもちまして富岡町議会全員協議会を終了いたします。
お疲れさまでした。

閉 会 （午後 3時31分）